



九州大学経済学部同窓会  
 事務局 〒819-0395  
 福岡市西区元岡744  
 九州大学経済学部内  
 TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560  
 mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp  
 郵便振替 01750-6-21743

**目次**

**令和3年度行事予定(総会のご案内) / 1**

**支部だより**

東京支部 事務局長 吉元 利行(昭和53年卒) / 2

関西支部 支部長 小森田 憲繁(昭和46年卒) / 3

大阪観光レポート:水都大阪

事務局長 谷村 信彦(平成3年卒) / 3

福岡支部 福岡支部事務局 / 5

《寄稿1》九大留学生との交流活動について

久永 博(昭和55年卒) / 5

《寄稿2》学びの機会を再び!迷ったらQBSで学びましょう!

岩本 涼太郎(令和2年QBS修了) / 6

お知らせ / 7

大分支部 事務局長 松本 始(平成9年卒) / 8

**鉄オタ特集**

西鉄福岡市内線の思い出

中楯 潔(昭和50年卒) / 8

私は「乗り潰し派」。昨年JR全路線を「暫定」完乗

吉元 利行(昭和53年卒) / 10

世界乗り鉄の夢 岩田 健治 / 12

北海道の殖民軌道・簡易軌道の探求を続けて 清水 一史 / 13

鉄道の絵本~その魅力とお勧め作品の紹介~ 平野 琢 / 15

**同窓生健筆模様**

体育会系から著述家への屈曲の道

山見 博康(昭和43年卒) / 17

「企業行動の経済学」—グローバル化の現実と課題—

市川 順一(昭和49年卒) / 18

Ambitious City—福岡市政での42年—

貞刈 厚仁(昭和52年卒) / 20

**リレー随想**

恩師たちの授業と試験

小金丸 颯(昭和54年卒) / 21

九州大学経済学部から広がる人の繋がり

玉置 誠司(昭和60年卒・平成18年QBS修了) / 22

**人物往来~新教員紹介 / 25**

**経済学部名誉教授の会**

幹事 福留 久大 / 26

**全国理事会報告**

会長 貫 正義(昭和43年卒) / 27

**決算報告 / 28**

**国際学術交流振興基金執行状況報告**

国際交流委員会委員長 加河 茂美 / 29

**卒業生就職状況 / 30**

**同窓会役員名簿 / 31**

**同窓会歴代会長 / 32 同窓会からのご願い / 32**

**令和3年度行事予定(総会のご案内)**

令和3年度の各支部総会を下記の通り予定しております。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集下さいますようご案内申し上げます。コロナウイルスの影響で変更が余儀なくされることを懸念しております。

**令和3年度 関西支部総会**

日時 令和3年5月 開催予定

場所 未定

〈お問い合わせ先〉 関西支部事務局 谷村 信彦

TEL (090) 6678-6754

E-mail tanimura-n@octb.jp

**令和3年度 福岡支部総会**

日時 令和3年6月8日(火) 18時~

場所 西鉄グランドホテル

(福岡市中央区大名2-6-60 TEL (092) 771-7171)

〈お問い合わせ先〉 福岡支部事務局 国生、高木

公益財団法人九州経済調査協会内

TEL (092) 721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

**令和3年度 全国・東京支部合同総会**

日時 令和3年7月7日(水) 18時~

場所 学士会館 210号室

(東京都千代田区神田錦町3-28 TEL (03) 3292-5936)

〈お問い合わせ先〉 東京支部事務局 吉元 利行

TEL (090) 8877-9012

E-mail t29yoshimoto@outlook.jp

**令和3年度 広島地区九大法・経同窓会総会**

日時 令和3年11月 開催予定

場所 未定

# 支部だより

## 東京支部

### 1. 理事会

今年は、3月9日午後7時に理事会を有楽町の九大東京オフィスにて開催し、今年度総会の開催準備について、協議しました。新型コロナの影響もありましたが、15名の理事の参加で行いました。また、恒例になっている経済学部の新卒者の歓迎会を4月11日(土)に予定していました。

その後、関東地区は4月7日に緊急事態宣言が発令されたため、新卒歓迎会をいったん6月に延期しましたが、結局開催できませんでした。また、七夕総会についても、緊急事態宣言が解除されたものの、最終的に6月15日に開催した今年2回目の理事会(Zoomにて開催)において、残念ながら開催の中止を決定しました。総会で承認予定の決算及び予算案などの総会審議事項はメールで会員にお知らせして、8月末までに承認を得ました。

なお、経済学部東京同窓会の伝統の7月7日の七夕の日の交流の灯を消さないよう、代わりに、7月7日7時から東京支部「七夕交流会」をZoomで開催することとし、若手理事を中心に準備することになりました。

### 2. 七夕総会に代わるZoom交流会

毎年開催してきた七夕総会は、新型コロナ感染リスク回避のため、開催を中止し、代わりに、若手理事の運営による「七夕交流会」と銘打って、九大東京同窓会が契約しているZoomを使って、7月7日午後7時から、同窓生との懇親を図りました。



交流会は、運営担当理事と支部長、伊東副支部長に九大東京オフィスに集ってもらい、残りの参加者は自宅等から20数名の参加になりました。オープニングは、若手理事の水田さんの司会で、東京支部の支部長である三井住友海上火災保険元会長の秦喜秋先輩と副支部長のANAホールディング会長の伊東信一郎先輩の対談から開始。そのあと、4つのブレイクルームに分かれ、3回にわたり交流しました。



ブレイクルームでは、岩田健治研究院長が「COVID-19とEU経済・世界経済の展望」、磯谷明德教授が、「経済学部の現在のオンライン授業」、清水一史教授が、「ダブルショック下のASEAN・東アジア保護主義とコロナウイルス」と題して、お話いただいたほか、各ルームごとのテーマに沿って交流しました。交流会には、大学から、ほかに藤井先生、小室先生、潮崎先生のご参加があり、総勢33名が参加しました。

初めてのオンラインとオフラインを接続した交流会であり、事務局の準備不足もあり、グループ分けや接続に手間取るなど不手際もありましたが、若手理事の奮闘と皆様のご協力で何とか無事開催できました。

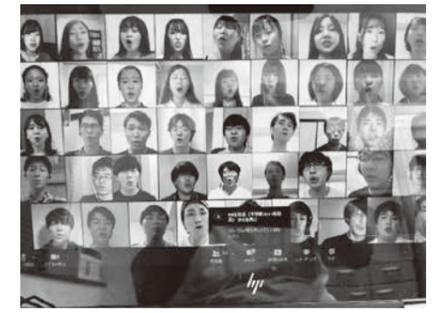
来年は、ぜひ、七夕の日にリアルで学士会館でお会いしたいと思います。

### 3. 新卒歓迎会

経済学部の新卒歓迎会が中止されたため、今年初めて開催される九大東京同窓会の新卒歓迎会に合流しました。全学のZoom新卒歓迎会は、6月30日に開催され、40数名の参加(新卒が25~6名)でした。オープニングの全体参加での佐藤住友生命会長(法学部卒)の開会あいさつ、若田光一宇宙飛行士(工学部卒)の乾杯の後は、3回にわたり、5~6人ずつ各部屋に分かれて、メンバーもシャッフルしながら、意見交換しました。

全体参加企画では、新卒者からの質問を受けて、先輩が回答(20分)、このコーナーの運営は、経済学部2018年卒の長澤さんが仕切りました。その後、

瀬藤君(経済)が40数名を8つの個別の部屋にアトランダムに分類。最初は、無テーマ。二回目は、チャットでみんなの意見を聞き、テーマを「失敗談」(30分)に決め、メンバーを入れ替え8つの部屋に分散。三回目はまたメンバーを入れ替えて、「新卒者は今何をなすべきか」を意見交換しました。大人数なので、混乱するのではないかと心配していましたが、Zoom運営の瀬藤君の裁きが見事でした。



### 4. 東京同窓会のSummer festa

毎年8月の最終土曜日に300~350人規模で開催している、九大東京同窓会も今年は、新型コロナの影響で中止になりました。そこで、Zoomを使い、大学との連携などの全体行事は参加者一斉に参加し、ブレイクグループは、50部屋用意して、少人数で交流するという事にしました。各学部の新卒から30歳代までの若手を中心に、企画委員会を毎週開催して、企画を練り、同じ会場にいらなくても、どうしたら一体感を感じられるかの工夫を行いました。また、Zoom開催という利点を生かし、香港、マニラ、ミャンマー、パース、ワシントンDCからも卒業生がコメントを寄せてもらうなど、海外との連携、地元福岡との連携も進めることができました。

当日は、総会の後、経済学部の瀬藤君(2015年卒)と長澤さん(2018年卒)の二人の司会で、東京同窓会櫻井龍子会長(法学部。元最高裁判事)のあいさつ、

## 関西支部

### 支部長挨拶

関西支部長の小森田です。今年5月に開催される予定だった関西支部総会は新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら中止に至りました。その間、理事会において種々検討を重ね、延期にして何とか開催できないか探りましたが、今後も状況が長引くと予想されること、同窓会のメンバーに高齢の方が多いことを考慮し中止と決定させていただきました。同窓会始まって以来の中止となり初めての経験でしたが、後日、福岡支部、東京支部も中止とされたので判断が間違っていなかったとホッとした次第です。

来年はワクチンができコロナ禍も落ち着いて支部総会が開催できること、そして皆様と元気な姿でお会いできることを信じています。どうか今後ともよろしくお祈りします。

### 大阪観光レポート：水都大阪

関西支部事務局長 谷村 信彦氏 平成3年卒

私は現在大阪観光局に勤めています。

コロナ禍が落ち着き、皆さん自身が安心して旅行できる環境になったと思うときに、是非大阪へお越しいただきたいと思い、同窓会報の紙面をお借りして、同窓会報第63号、64号に続いて、大阪の観光について第3弾をお送りしたいと思います。

みなさん、大阪と聞いて何を思い浮かべますか? 「たこ焼き、お好み焼き、粉ものが美味しい食べ物がある街」「しゃべりが漫才みたい、よしもと新喜劇、おもしろい人・街」等々。実は、大阪では世界に誇る「水都大阪」を発信するブランド展開を試みています。

大阪市内の河川の面積は20.5km<sup>2</sup>で、これは市域面積約220km<sup>2</sup>の約10%に当たり、東京都区部では5%、横浜市3%、広島市3%、名古屋市5%ですから、10%という数字は大都市として誇れる数値であります。また、世界の都市の中で、アムステルダム、ベ

ネチアなど”水都”として名高い都市がいろいろありますが、四方を川で囲まれた都心を持つ大都市となると大阪以外にはなく、まさに大阪はオンリーワンの都市といえます。大阪は地勢的にも人文的にも、水都と呼ばれてしかるべき背景があり、様々な歴史的・文化的な資源や魅力ある水辺の空間や景観を有しています。その一部を見てみましょう。

○水が生み出したまち

太古、大阪は海の下にあった。現在の市内都心部の大半は大阪湾の底であり、わずかに上町台地の丘陵が半島のように陸上に顔を出すのみであった。やがて、淀川が運ぶ土砂が河口に堆積し、上町台地の東に河内湖と呼ばれる巨大な湖をつくり、さらに5世紀以降の治水事業を経て新たな陸地が生まれた。ここに都市大阪の起源となる難波津の都が置かれた。645年のことである。大阪は、水が生み出したまちである。当時、御堂筋は波打ち際であったのである。



○堀がまちをつくり、まちが堀を育てた

古代王朝期には奈良、京都と幾度も都が移り、大阪は都市としての発展が停滞していたが、やがて戦国期となり、海と川に囲まれた優れた要害の地として豊臣秀吉が大阪を選んだ。



この頃の大阪は、現在の御堂筋付近に海岸線があり、上町台地から西にはまだ都市としての構えがなかったが、秀吉は城の守りの強化と城下の拡大、そして治水対策までを一挙に行う都市開発事業を行った。すなわち堀川の開削である。堀川を掘った土は両側に盛られ新たな土地となり、舟運が可能になったことと合わせて、堀川沿いに次々と新たなまちが生み出されていった。まちの発展が同業者の集まる界限や、川・海を経て様々な荷が集散する浜を生み出し、それは新たな堀の開削へとつながっていった。こうして、現在の大阪都心部には江戸期までに15本の堀が開かれ、文字通り水都としての様相を呈していた。

○水上交易の中心

5～7世紀の難波の都の時代には、大阪は大陸と交易する国際港として繁栄していた。その後、大阪付近の海浜が淀川による堆積で浅くなったため、交易港としての機能はしばらく堺に譲ることとなったが、秀吉以降の都市開発によって名実ともに全国一の交易拠点として再生することとなった。これは、北海道や江戸と畿内を結ぶ北前船や樽回船などの外航路と、淀川、大和川を経て京都や奈良にいたる内航路とのつながりが良いことが大きな要因である。

こうして「天下の貨七分は浪華にあり、浪華の貨七分は舟中にあり」とまで記されるようになり、経済都市としての隆盛とそれを支える舟運の華やかなにぎわいが生み出されることとなった。

以上は大阪の水都としての歴史の一部であり、現在も台風時の高潮対策に造られた居藍水門、日常生活でも欠かせない800近くある橋、そして3河川に8箇所15隻の渡し船が運航されており、多くの人々に利用されています。現在運航している渡船に乗ってみるのもよし、かつて渡船場があった場所を訪れて昔の大阪を偲んでみるのもよし、一度ガイドマップを持って出かけてみられてはいかがでしょうか。大阪市の渡船は全て無料です。

また、近年になり市内の水上観光が見直されるとともに、訪日海外旅客の拡大により各種の観光船便が生まれました。

それでは、最後に観光に活用されている、水都を体験できるクルーズを紹介させていただきます。

①大阪水上バス アクアライナー

水の都・大阪を川面から眺める水上バス。大阪城や中之島などの観光名所を巡る約55分間クルーズ。



四季折々の風景を満喫。

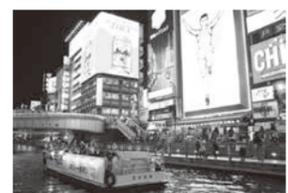
②とんぼりリパークルーズ

大阪ガイド・クルーの案内で、橋や遊歩道などミナミの賑わいを道頓堀川から楽しめる約20分のクルーズ。



③とんぼりRiver JAZZ Boat

ジャズの生演奏を聞きながら道頓堀川を周遊す



る約40分のミュージッククルーズ。

④中之島リパークルーズ

小型リムジンボートに乗ってライトアップされた橋や建物の美しい夕景・夜景を楽しめる、約20分間のラグジュアリークルーズ。



⑤NAKANOSHIMA Night View Cruise

大阪市中央公会堂や大阪城のライトアップ、中之島の大噴水、水都の中心・中之島の夜景をめぐる贅沢なクルーズです。



⑥大阪城御座船

金箔を多用した船は豊臣秀吉の「鳳凰丸」を参考に再現。大阪城内壕を約20分で遊覧します。乗り場は極楽橋横。



⑦キャプテンライン

海遊館西はとぼとユニバーサルシティポートを結ぶシャトル船。片道10分（往復30分）のミニクルージングを味わえます。



⑧帆船型観光船 サンタマリア デイクルーズ

冒険心をくすぐる帆船型の観光船で、バイエリアの壮大な眺めを満喫できます！



これらクルーズ船の体験には、大阪市営地下鉄・バスとこれらクルーズ船を含めた約40カ所以上の大阪施設が無料で入場できる「大阪周遊パス」（1日券2800円、2日券3600円）の利用が大変便利でお得です。是非、「水都大阪」を楽しんで下さい。

福岡支部

毎年11月に刊行する同窓会報の福岡支部だよりには、5月のゴルフ交流会、6月の支部総会、8月のアサヒビール園でのサロン会等の活動報告を掲載していますが、今年は新型コロナの影響で、これら行事がすべて中止となり、掲載する原稿の当てがなくなりました。そこで福岡支部の会員の皆さんに、近況報告などの原稿を募ったところ、1980年卒の久永博氏と2020年QBS修了の岩本涼太郎氏からご寄稿いただきましたので、以下、掲載いたします。ご協力有り難うございました。（福岡支部事務局）

《寄稿1》九大留学生との交流活動について

久永 博氏  
1980(昭和55)年卒



経済学部同級生とハノイにて(2019年2月)、右から2番目が筆者

私は8年前に損保会社を早期退職し、現在は福岡市の学童保育、児童養護施設、児童の自立支援、動物愛護活動などのボランティアを行っています。

私の大学時代は逢坂先生のゼミに参加していましたが、余り勉強しないで、麻雀をしたり、合コンをしたりして大学生活を楽しみました。おかげさまで、その後も同級生との交流は続き、同窓会、飲み会、国内や海外への旅行などを一緒に楽しんでいます。この4年間で九大経済学部同級生と台湾、タイ、ベトナム、中国に行きました。1年半前にベトナムに行った時は九大経済学部元留学生が3日間フルアテンドしてくれました。

現在、九大では短期留学を含めると3,000人近くがそれぞれの専門分野を学んでいると聞いています。私は4年前に九大留学生センターの高松里准教授から、友達ができず、福岡の暮らしに馴染めず、途中帰国したり、カウンセリングを受ける留学生が多いと聞いて、九大留学生との交流活動を始めました。具体的には福岡留学生交流の広場のフェイスブック



九大留学生と久住連山へ (2020年8月)

のウェブサイトにはほぼ毎日、日本の文化や歴史、福岡のイベントなどを英語で紹介しています。最近ではコロナウイルスの感染情報、七夕、お盆や土用の丑の日などの情報を投稿しました。お茶会、着付け、書道などのイベントに連れて行ったり、阿蘇のサマーキャンプ、紅葉ツアーなどの旅行や花見、カラオケ、餅つき、一品持ち寄りパーティなど、年間30回程度の旅行やイベントを企画しています。

今年の7月は留学生5人を連れてヨットに乗りました。8月は九大留学生11人と、南阿蘇に一泊して久住連山に登りました。この活動は4年前7人でスタートしましたが、現在は九大留学生(元留学生を含む)を主に福岡留学生交流の広場のメンバーは870人になりました。

東京で就職する留学生も毎年増えています。せっかく福岡で人脈を作ったのに東京で寂しい思いをしている元留学生も多いと聞いたので、今年九大元留学生東京の会を作りました。現在コロナウイルスの影響で第一回目の懇親会は延期となっています。

私が九大留学生との交流を通して実現したいことは次の3点です。

1. 留学生が日本の文化や歴史を理解し、福岡での暮らしをエンジョイすることで日本、日本人のファンになり、帰国後に彼らの国と日本との懸け橋になる。
2. 世界中に元留学生とのネットワークを作り、ビジネスや文化活動を共有し、新たなビジネスチャンスを作る。
3. 日本で就職、起業する留学生をサポートしていく。

4年前のこの同窓会報に同級生の松本恵子さんが投稿されたきっかけで、松本さんとも再会でき、今年7月にオンライン同窓会をしました。

## 《寄稿2》学びの機会を再び！ 迷ったらQBSで学びましょう！



苦戦して提出したプロジェクト論文

日本タングステン (株)  
経営企画部 副主幹  
**岩本 涼太郎氏**  
2020(令和2年)QBS修了

はじめまして。本年2020年3月に経済学府産業マネジメント専攻(九大ビジネススクール、略称QBS)を修了した岩本と申します。1998年(平成10年)に大学を卒業し、カメラ会社、自動車会社、電機会社、ネット通販を経て、現在、日本タングステン(株)に勤務しております。タングステンとはダイヤモンドに次いで硬い物質で、その粉末を焼き固めて加工した製品を販売しております。8年程前に「ほこたて」というテレビ番組で硬さを競ったのを覚えていらっしゃる方もおいでかと思えます。

私が社会人になってから23年目に突入しました。1年目から22年目までは購買職でした。製造業は製品を構成する材料、部品の全てを自社で生産するのではなく、専門メーカーから調達します。その為、国内のメーカーだけでなく、海外のメーカーからも調達する必要があります。簡単に言えば、“どこから、何を、いくらで、どれだけ買うか”を決める業務です。コストダウン交渉のイメージが強い業種ですが、実は原価計算、為替・市場価格、生産管理、技術動向、異文化理解などが求められる幅が非常に広い業務です。20代後半から30代半ばになると業務への慣れと経験則で解決できることが増えてきました。しかし、本当に経験則による判断で良いのか?と疑問に思う機会が増えました。特に勤務する会社の経営状態が悪化した時に思いが強くなりました。そのような疑問を持ったまま40代となり、経験則でも合っていることと合わないことを検証すべきだし、体系的にいろいろな分野を学ぶべきと思うようになりました。

そこで、門を叩いたのがQBSです。2018年8月の大学説明会に出席して出願を決めました。めでたく合格となり2年間の学びが始まりました。結論としては学んで大正解でした!出願当時は業務が多忙を極め、出願を辞めようか迷ったこともありましたが、気持ちを続けられて良かったです。

こうして執筆している中でも、多くの学びが思い起こされます。村藤先生の企業財務、企業価値創造とM&Aでは、会社や事業が存亡に瀕した経験を思い出しながら資金調達、事業再編を学びました。永田先生の知識マネジメントでは、暗黙知を限られた人だけでなく組織に浸透させていくSECIモデルを学び、自動車デザインという数値化しづらい分野をSECIモデルで社内展開する方法を同級生とのグループワークで探りました。QBSの情熱教室ともいべき星野先生の国際経営では、海外資本提携先との業務に重ねてあるべき姿をディスカッションしました。高田先生の産学連携マネジメントでは、現職で課題となっている世界シェアが高い主力製品に代わる製品を探索、育成する方法を学び、新規事業の育成に活かしています。松永先生の組織行動論、リーダーシップ論では、誰もが悩む組織運営、部下育成の学説、概念を学びました。プロジェクト演習(ゼミ)の指導教官でもある目代先生の生産管理の課題ではマイク・ローザー著の『トヨタのカタ』に出会い、各社で感じていたカイゼン活動のあるべき姿が合っていることを確認できました。平松先生のファイナンシャルマネジメントの学びは、本年4月から移動した経営企画部門での事業計画策定、事業評価にダイレクトに直結しています。紹介したい学びは限りませんが、紙面の制約もありますので、一言。業務で疑問に思ったり、迷ったら、是非、QBSの門を叩いてください!



2019年夏の星野ゼミ・目代ゼミ合同合宿。後列右から2人目が筆者。

### 《福岡支部からのお知らせ》

#### 1. 第69回交流ゴルフ会のご案内

福岡支部では、恒例の標記交流ゴルフ会を下記の通り開催します。ご友人等お誘いあわせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 令和2年11月15日(日)

当日は7:30にスタート室前にご集合ください。

アウト及びイン第1組7:57同時スタート

場所 伊都ゴルフ倶楽部 糸島市香力474

TEL (092) 322-5031

#### 2. 令和2年度忘年会のご案内

福岡支部では、忘年会を下記の通り開催します。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 令和2年12月14日(月) 18:30~

場所 八仙閣本店

福岡市博多区博多駅東2丁目7-27

TEL (092) 411-8000

#### 3. 令和3年度福岡支部総会のご案内

福岡支部では来年度の総会・特別講演会・懇親会を下記の通り開催いたします。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 令和3年6月8日(火) 18:00~20:30

場所 西鉄グランドホテル

(福岡市中央区大名2-6-60 TEL (092) 771-7171)

※新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、必要がある場合には追加の連絡をさせていただきます。

#### ＜上記お問い合わせ先＞

福岡支部事務局 高木、国生

公益財団法人九州経済調査協会 内

TEL (092) 721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

### ～中央図書館紹介～

「次の百年を担う図書館であること～アジアのトップブランドとして～」を基本コンセプトに、収蔵能力350万冊を有する国内最大規模の図書館として、2018年10月に全面開館しました。

150万冊収蔵可能な自動書庫と、可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな学習空間であるアクティブ・ラーニング・スペースを中心にサービスを提供しています。

コロナ禍のため、現在図書館をご利用いただけるのは学内構成員のみで卒業生は入れませんが、コロナが終息した折には、最新の情報をご確認の上、是非図書館に足をお運びください。

附属図書館 Web サイト(<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>)

(編集部)



# 大分支部

大分県支部の活動はなかったものの第4回九州大学の全学部の懇親会を開催しましたので、ご報告します。

九州大学大分同窓会「豊松会」が、令和2年2月7日（金）18時00分、全学部75名（経済学部からの参加者19名）の会員の参加の下、大分市のトキハ会館5階「ローズの間」で開催された。

まず、社会人1年目が乾杯の音頭を行なうことが恒例となっており、西川佳祐さん（平成31経済学部卒）の乾杯の発声。杯を掲げ歓談の輪が広がった。

懇親会は、昭和38年卒から平成31年卒と様々な年

代が集まり、大学時代の思い出と近況の報告も行なわれ、多いに盛り上がった。

今年も、有志の方々の協賛による抽選会も行なわれ、番号が発表されるたびに歓声と悲鳴が交錯。当たらなかつた方にも記念品が贈られた。

話は尽きなかつたものの、同窓会の発起人である岩崎哲郎さん（昭和49法学部卒）の挨拶の後、来年の再開を誓い合った。

【大分県支部事務局長 松本 始（平成9年卒）】



# 鉄オタ特集

## 皆様へのお願いの言葉

汽車電車熱愛者の特集を企画した後に、コロナ禍が猛威を振るうことになりました。執筆者の間で、コロナや酷暑・風水害で皆様が難渋しておいでの際に、のんびりと超偏愛アンソロジーを組むことが許されるだろうか懸念の声が出て参りました。編集部も苦慮致しました。しかしながら、外出自粛で巣ごもり中でも心慰められる作品があり、コロナ終息後を夢見る作品があり、コロナなど問題にならなかつた昭和を語る作品があり、この驚くべく多彩な才能の発現には、苦しみ悩む人々をも慰め励ます力が潜んでいるに違いないと確信するに至りました。思う存分に自由に執筆下さいと寄稿の皆様へ申し上げた次第です。同窓の皆様には、そういう事情にご理解を頂きたくお願い申し上げます。（編集部）。

## 西鉄福岡市内線の思い出



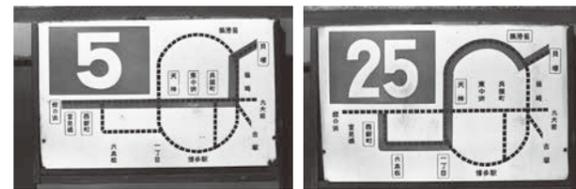
中橋 潔氏  
1975(昭和50)年卒

1971（昭和46）年4月九大に入学した当時、西鉄福岡市内線の路面電車（以下市電という）はまだ健在で、

貫線、循環線、貝塚線、呉服町線、城南線、吉塚線の6路線計29.2kmが残っていた。箱崎キャンパス、堅粕キャンパスおよび六本松の教養部のどこにも近くに市電の電停があり、通学する時国鉄利用者は博多駅で、西鉄大牟田線利用者は終点福岡駅もしくは薬院駅で市電に乗り換えればどのキャンパスにも行くことができた。

昭和40年代にはモータリゼーションの進展により全国の路面電車が廃止の危機状態になっていたが、福岡市も例外ではなかつた。まず、1973年1月に吉塚線1.2kmが廃止になった。1974年に福岡市と西鉄の間で市営地下鉄の建設と市電の廃止に関する基本事項の合意が成立し、地下鉄の工事着工に伴い、1975年11月に地下鉄路線と競合する貫線・呉服町線・城南線計17.7kmが廃止になった。さらに、最後まで残っていた貝塚線・循環線10.3kmも1979年2月に廃止となり、福岡市内線は69年の歴史に幕を閉じた。

生まれてから九大を卒業するまでの22年間はずっと福岡で過ごした。1971年7月大学1年生の夏に筑



西鉄福岡市内線 25番系統と5番系統

紫郡大野町（現大野城市）に転居するまでは、草ヶ江・鳥飼・薬院と城南線の沿線に住んでいた。当時、天神方面に出かける時はバスの利用が多く、頻りに市電に乗った記憶はない。幼少の頃の市電とのかかわりは、博多どんたくの時に走る豪華絢爛な花電車の見物ぐら이었다と思う。高校時代は薬院の官舎に住んでいたため、博多駅に行く時は南薬院電停から市電に乗った。高校時代に鉄道趣味にはまり頻りにS Lの写真撮影に出かけたが、いつも始発の市電に乗って博多駅に向かったものである。朝5時台の市電は道路も空いていて、時刻通りやって来るし、あつという間に博多駅に到着できた。

通学に市電を利用したのは九大入学してからであつた。1971年入学した時の自宅は薬院だったので、六本松の教養部まで自転車で通つたが、1年の夏休みに筑紫郡大野町（現大野城市）へ引っ越してからは、西鉄大牟田線で薬院まで行き、城南線の城東橋から六本松まで市電に乗った。1972年10月から箱崎の経済学部に通う時は、天神から九大中門まで市電に乗った。天神電停ではなるべく循環線経由の25番系統貝塚行きに乗るようにしていたが、25番系統が来ないときには、貫線5番系統の貝塚行きに乗った。貫線経由は県庁前や東中洲を通るので、混雑していたし時間もかかつたと思う。千鳥橋と貝塚間3.3kmは鉄道線の西鉄宮地岳線を1954年に改軌して市電が乗り入れする専用軌道であり、市電が自動車に邪魔されずに軽快に走るので大変心地よかつた。

帰りは時々箱崎キャンパスの中を歩いて正門を出て九大前から貫線に乗って天神に向かったことがある。九大前電停の学生の街らしい終点の雰囲気が好きだつたし、何よりも空いている始発電車に乗るのは気持ちよかつた。途中の筥崎宮の鳥居が見える箱崎、民家の軒先を走る馬出、県庁移転前の広々とした東公園の横の大病院前等のいつもと違う風景は気分転換になった。

市電の電停には早朝深夜以外の時刻表はなく、「約\*\*分毎」の表示だったので、市電に乗る時に発車時間に合わせて電停に行くことはできなかつた。不便だと思つていたため、九大中門の次の駅員のいる終点貝塚に行って、貝塚発の市電の時刻表を見せてもらった。それを書き写して、手書きの時刻表を作成し、筑紫丘高校の出身者に配つた。これは貝塚の市電の発車時刻だつたが、次の電停の九大中門でも十分使えた。天神方面の市電の本数は多いが、博多駅方面の15番系統は運転本数が少なかつたので、博多駅に行く時は大変役立った。この手書き時刻表は

結構広まつていて、電停で知らない学生がこの時刻表を見ているのに驚いたことがある。

大学時代はまだ全国的にS Lが走つていたので、休みになれば九州だけでなく北海道・東北・信州などへS L撮影に出かけていた。当時、別大電車、京都市電など全国的に路面電車の廃止が相次いでいたので、S L撮影の道すがら各地の路面電車も撮影していた。福岡も1974年に市電の廃止が決まつたので、市電の撮影に出かけることが増え、平日もカメラ持参で通学したことがたびたびあつた。

著名な福岡市電撮影ポイントを二か所ほど紹介します。その一つは、城南線と大牟田線の平面交差である。大牟田線は薬院駅、城南線は城東橋電停と名前が異なるが、教養部時代にはここで乗り換えして通学していた。このような鉄道線と軌道線同士の平面交差は全国的に珍しく、その当時京都の京阪電鉄・京都市電と松山の伊予鉄道の3か所が残つていたと思う。大牟田線と市電の両者の出合いを撮影することはなかなか難しかつたので、何回も出かけて電停の安全地帯や近くのビルの屋上から撮影を繰り返した。ちなみに2015年10月のプラタモリ「福岡と鉄道」の冒頭に登場した場所でもある。大牟田線の電車がスピードを落として軌道線を渡る時に繰り返すガツガツガツガツの音が懐かしい。

もう一つの撮影ポイントは単線区間のタブレット交換風景。狭い国道202号を走る貫線の室見橋-姪浜間は単線だつた。正面衝突を避けるために、途中の愛宕下電停と竹の山四丁目電停で昔ながらのタブレットの交換を行つていた。電停で運転手が窓から身を乗り出してタブレットを交換するシーンを狙つていたが、タブレットそのものがうまく写らず納得できる写真は少なかつた。また、国道202号線は自



城南線城東橋での大牟田線との平面交差



貫線竹の山4丁目タブレット交換風景

動車の交通量が大変多く電停に安全地帯がないので、自動車に邪魔されないように、接触しないように緊張しながら撮影した記憶がある。

1975年4月に農林中央金庫に就職し、初任地は札幌だった。11月に廃止になる貫線と城南線の最後の姿を撮影したかったので、無理は承知で上司に一週間の休暇をお願いしたところ、最初は良い顔をされなかったけど、最後はしぶしぶ承諾してくれた。おそらくまだ新人、いてもいなくても大勢に影響がなかったからだろう。札幌駅から、特急おおぞら・青函連絡船・特急はつかり・新幹線ひかりと乗り継いで博多駅までたどり着いた。10月27日から11月1日にかけて貫線と城南線を中心に、九大前と姪浜の終点風景、天神から呉服町の福岡の中心部、今川橋・城西橋・室見橋を渡る風景、六本松から練堀町への勾配区間等を撮影して回った。運行最終日の夜、九大前電停で最後の花電車を待った。電停には、多数の地元住人や鉄道ファンが集まり、名残惜しそうに三台の花電車を見送った。最後に九大前から天神まで市電に乗車し、大牟田線の終電で帰宅した。その後帰省しても市電に乗ることも撮影に出かけることもなかったが、このとき廃止ならなかった循環線と貝塚線は1979年2月に廃止になった。

市電廃止の契機となった市営地下鉄は1981年7月に天神-室見間が部分開業し、1983年3月に博多-姪浜間が全面開業した。この時点で国鉄筑肥線の姪浜-西唐津間の電化が完成、市営地下鉄と筑肥線の



貫線九大前 最後の花電車 1975.11.1



貫線今川橋 博多湾の向こうは志賀島

相互乗り入れが開始となり、筑肥線の博多-姪浜間が廃止となった。福岡の東西を結ぶ二つの鉄道、西鉄福岡市内線と国鉄筑肥線（博多-姪浜間）は昭和の世のうちに姿を消したのである。



天神交差点 昔の岩田屋と西鉄福岡駅

### 私は「乗り潰し派」。昨年JR全路線を「暫定」完乗



経済学部同窓会東京支部事務局長  
現代ビジネス法研究所代表

吉元 利行氏

1978(昭和53)年卒

#### 1. 軽薄な乗り潰し

「鉄キチ」といっても、本会報を見ていただければわかるように、バラエティに富む。私は、「乗り潰し」派の一人として論稿を寄せさせていただくことにする。「乗り潰し」とは、交通機関の全路線・全区間を完全に乗車すること（完乗）をいう。鉄道路線図に、乗車区間を色鉛筆で塗りつぶし、全部の路線を乗りつぶすために、また、列車の旅に出るのである。

ここまで、読んだ方には、スティックな乗り鉄との印象を与えてしまうが、私は実は、軽薄な「乗り鉄」である。なぜなら、乗車中は、初めて通過する路線以外は、あまり外の景色を楽しむこともなく、駅弁を食べたり、日頃読めない本をまとめて読んだり、月刊紙などの原稿の締め

切りに追われて、パソコンに向かっているからである。しかも、乗車路線を決めるのに、鉄道マニアに必須な「JR時刻表」をほとんど使わず、「乗換案内NAVITIME」を使用して行程を決めており、乗り潰しの記録も、後半は「乗り潰しオンライン」という無料ソフトに入力するだけなので、まともに駅名や路線名を覚えていないのである。例えば、山形県のJR東日本の地方路線で左沢駅（終点）に行く予定で、日程を組んだが、いくらアプリに入力しても



この地図で塗り潰し始めました

左沢駅が出てこなかったことがある。よくよく調べてみると、「あてらざわえき」と読むことが分かった。こんな失敗は数多い。

もちろん、乗り潰しだけでなく、寝台特急のカシオペアやサンライズ瀬戸、JR九州の九州横断特急、ゆふいんの森などのD&S（デザイン&ストーリー）列車にも乗っているが、基本は地道に普通列車で乗りつぶすだけである。

#### 2. 乗り潰しのこだわり

私は、いくつか、「乗り潰し」の旅のポリシーを決めている。

- ①線路を確実に乗り潰す。
- ②昼間は、お酒は飲まない。
- ③終着点では、地元のお店を利用する。
- ④キャッシュレスの普及状況を確認する。

第一は、当たり前のことだが、実は、結構大変である。例えば、JR東海の東海道本線の大垣駅と関ヶ原駅は、上りは普通列車で関ヶ原-垂井-大垣と通過するが、下りは、大垣・関ヶ原間に2路線ある。列車によって、廃止された新垂井駅（新垂水線）経由と本線を通る区別がある。この線は、上下線とも普通列車で、また上りを特急サンライズ瀬戸、下りをしらすぎ11号で完乗した。長崎、愛媛、長野、北海道にも、2経路に分かれる路線があり、特急が通らない方の線は、なかなか乗る機会が少なく、完乗するには十分な時間が必要なのだ。



140円で一筆書きなら8時間乗れます



大人の休日倶楽部の切符は最高です

また、既乗の路線でも、高架になるなど、路線が変わることがある。東北の三陸方面は、東日本大震災前に完乗していたが、大津波で消失した線路も多く、気仙沼線・大船渡線では、BRT（バス高速輸送システム）で再度訪問したり、高架工事が行われた常磐線の駒ヶ嶺-浜吉田間は、再乗している。また台風や豪雨被害で、一部区間が営業停止している福島のみ見線、北海道の日高線は列車代行バスを経由して乗車した。「暫定」完乗と名付けたのは、代行バスでしか通過していないからだ。只見線は、2022年中には復旧が終わる見込みであり、乗れる日を楽しみにしている。2020年の九州の豪雨では多くの路線が影響を受け、鉄橋流出などの被害もあった。国民のインフラとしての鉄道網の維持は、乗客確保

とともに、自然災害との戦いでもある。有効な対策を鉄道会社が打てるよう、自然にも優しい鉄道をできるだけ利用していきたい。

#### 3. 楽しみは地元の食事

乗車中は、列車内で仕事をしたり、キャッシュレス調査の目的もあるので、めったにビールは飲まない。乗り潰しも後半になると、短時間での乗り換え、途中駅乗り換えもあるので、うっかりして乗り換えをミスすると、最終目的地につけず、宿泊場所に困るからだ。

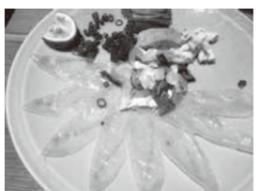
最近は、駅弁を販売する駅が極めて少なくなった。終点駅でも、店舗すらなく、3時過ぎまで、昼食を食べられないことがある。そこで、乗車駅で駅弁か、コンビニで弁当を買って乗車するが、乗り換えに1時間前後あるときは、地元の定食屋さんやレストランを探して、食べる。中でも、昼間3度訪れたのが岡山県の新見駅そばのレストランのホルモンうどんである。伯備線、姫新線、芸備線が乗り入れる新見駅は中国地区の重要駅である。



suica弁当



SL C6120弁当



大分ではぶぐを食べました

夜は、あらかじめネットで調べた人気店を中心に、ホテルの近場にて、1~2軒回って、昼間飲めない分を取り戻すべく飲む。やはり、評判のいい店は、美味しい。地元の人との交流もあり、再訪したい店も多いが、ここは枚数がないので、私のFacebookの記録を見てもらいたい。

最後のポリシーは、仕事に關係する。現在、決済関連サービス企業にアドバイスやコンサルティングを行いながら、世界中のキャッシュレス化への取り組みを調査し、調査結果をレポートしたり、講演したり、専門紙のメルマガに連載している。乗り潰しの後半では、地方に行くことが多くなったので、弁当を買ったり、レストランを探す合間に、地元の小さなスーパーのキャッシュレス取り扱い状況を調べたり、カード決済を導入していない店舗には、その理由を尋ねるなどして、生の声を聴いている。

#### 4. 今後の目標

国内のJR路線は、列車代行バス区間を除き、全

部走破したので、今後は、まず、旧国鉄から分離した第三セクターの全路線を完乗しようと思う。同時に、全国の私鉄も、乗りつぶしたい。地下鉄は、ほぼ乗りつくしているが、全部を走破するのは、もう少し時間がかかるだろう。一方、海外の鉄道にも乗りたい。シンガポールの鉄道は乗りつくし、イタリアの高速鉄道、スウェーデン近郊路線、バンコクの路線など少しずつ乗りつぶしているが、長距離列車に乗りたい。候補は、9,300キロ、6泊7日かかるシベリア鉄道モスクワ号やモスクワからリスボンまで、国際特急を乗り継ぐことだ。新型コロナの流行で、海外旅行の先行きが見えないが、早期のワクチンと治療法の確立で、懸念なく海外乗り潰しができる日が訪れることを祈りたい。(札幌のホテルにて。北海道の市内電車と地下鉄の完乗を終えて)。

世界乗り鉄の夢



経済学研究院長  
岩田 健治氏

1960年に生まれて小学校に入るまで、埼玉県北浦和駅近くの線路沿いで育った。家の前には当時の国鉄の「三複線」(それぞれが複線の①貨物線、②中長距離旅客列車用路線、③通勤用の京浜東北線)が敷かれ、その上を長野や金沢に向かう信越本線、新潟や秋田に向かう上越線、そして青森で青函連絡船に接続する東北本線の列車や貨車が高頻度で走り抜けていた。冬場は屋根に雪を乗せて走る客車や貨車を見て、目の前の線路がつながる遙か遠い世界に想像を膨らませていた。

かくして鉄っちゃん誕生となる訳だが、その出自から自分は「配線鉄」に分類される。国鉄(JR)でも私鉄でも、日本でも外国でも、異なる鉄道事業者の線路が「連絡線」なるもので結ばれて、列車が乗り入れるのを見るのが(あるいは妄想するのが)、無性に楽しい。日本や世界の鉄道にはいろいろな線路幅(軌間)があるから、軌間の異なる路線間で工夫(三線・四線軌条、フリーゲージトレイン、台車交換等)して乗り入れていくのを見ると(あるいは妄想すると)、嬉しくて仕方ない。

こうして「世界乗り鉄」の旅は、1991年にロンドン大学LSE留学時の冬休み、スコットランドのスカ



イ島という小さな島を訪れ、帰路に航路で立ち寄った港町マレイグの駅で2両編成のディーゼルカーに乗った時から始まった。その後、欧州に観光や調査で訪れるたびに鉄道を有効利用し、結果としてマレイグーロンドンーパリーマドリッドーバルセロナーミラノーウイーンーミンスクーモスクワ(おまけでモスクワーサンクトペテルブルグーヘルシンキ)を走破した。欧州や中国は標準軌1435mmである一方、スペインは1668mmの広軌、旧ソ連諸国も1520mmと、線路幅が異なる。そのためスペイン国境では軌間可変可能なタルゴと呼ばれる列車が軌間変換装置を通り抜けることで改軌。他方、ポーランド・ベラルーシ国境では、乗客を車両に乗せたまま台車交換のための特別な路線に入線。ジャッキで車両を持ちあげ、下の台車だけを履き替え、同じ車両で再び走り出す(写真)。

世界乗り鉄の旅はさらに続く。モスクワーウランバートルー北京間7622kmを6日間かけて走破するいわゆる「K4次列車」は、1969年の中国国境紛争の際にも走り続けた歴史的な国際列車だ。1999年の元旦をはさむ6日間、何日も同じ景色が続くシベリアの荒涼たる大地、バイカル湖、モンゴルの広大な雪原、万里の長城を經由し、北京に至った6日間は至福の時間だった。その後、北京ー平壤の「K27次列車」の旅も、様々なハプニングに見舞われながら終えた。あとは2003年の再連結事業で南北が鉄路で結ばれた京義線が、いつか旅客に開放される日が来れば、ソウルを經由して釜山まで辿りつくことができる。さらに将来日韓海峡トンネルが開通すれば、もちろん博多まで乗って日本国内との接続を終えたところだ。

スコットランドから釜山まで、こうしてユーラシア大陸の鉄路は実際につながっており、今でもパリやウイーンから朝鮮半島まで、モスクワと北京で国際列車をたった2回乗り継げば到着できるのである。

「そこに鉄がある」限り、世界乗り鉄の旅はさらに続く。ロシアと米国を隔てるベーリング海峡にトンネルを通す計画を2007年にロシア政府が発表。生きているうちに開通すればシベリア鉄道に接続するバイカル＝アムール(バム)鉄道經由で乗車し、アラスカから南米までの一筆書きを開始したいのだが、恐らく筆者が「銀河鉄道(三途の川鉄道)」に乗車する方が先だろう。

よって現在は、より現実的に、シルクロードを西進し、中東をカイロまで抜け、アフリカを縦断してケープタウンに至る計画を練っている。パレスチナ自治区も含め二大陸で合計19の国境を越え20カ国を訪れる一筆書きの旅だ。主要経由地(太字は首都)を挙げよう。

北京・ウルムチ・伊寧S①Wアルマティ W②WタシケントW③WトルクメナバードW④SテヘランS⑤SバグダッドS⑥SアレppoS⑦SベイルートS⑧SテルアビブS⑨SガザS⑩SカイロS⑪NハルツームN⑫NジュバS⑬Sカンバラ S⑭SナイロビN⑮NダルエスサラームN⑯NルカサN⑰NハラレN⑱NハボローネN⑲Nケープタウン (了)

注)「・」:同一国内、「=N①S⇒」:国境、N:軌間1067mm、S:軌間1435mm、W:軌間1520mm。二重下線:線路が繋がって直通が可能(下線:旅客扱い)、波線:歴史的に存在するも現在紛争などで破壊、点線:建設中もしくは計画線。

北京からテヘランに至るシルクロード沿いの路線は既に貨物列車が直通しており、現在貨物しか扱っていない①③④の国境で旅客扱いが開始されれば完遂可能だ。

続くテヘランからカイロに至る路線が難所だ。⑤は現在計画があるのみ。バグダットからは、ドイツが第一次世界大戦前の3B政策で計画しその後敷設された路線や、英国がカイロを拠点にレバノンまで順次敷設した鉄道などを經由して実際に結ばれていた。しかし1948年からの数次にわたる中東戦争、2010年代のシリア内戦や「イスラム国」による支配等により無残なまでに寸断されている。乗り鉄の実現は、この地域全体の和平実現次第と言えるが、道のりは遠い。

アフリカ大陸では、英国が第一次世界大戦前の3C政策に沿って建設を進めた「ケープ・カイロ鉄道」の1067mm軌間(一部は1000mmと1435mm)のネットワークが存在しておりそれを乗り継ぐ。ただし、カイローダルエスサラームは第二の難所で、⑪でアスワンハイダムに、⑫で南北スーダン紛争に拒まれ、⑬⑭は中国主導の標準軌敷設計画があるのみ

だ。しかし、ダルエスサラームから先、南アフリカのケープタウンまでは、ロボスレイル社が、5カ国5800kmを15日かけて直通する豪華列車を運行している。資金(US \$ 12,820)と時間(14日間)さえあれば乗車可能だが、残念ながらどちらも全然足りない。退職後のお楽しみとするしかない。

北海道の殖民軌道・簡易軌道の探求を続けて



経済学研究院教授  
清水 一史氏

皆様、お元気でしょうか? 今回の「鉄道好き特集」に寄稿できて、大変嬉しいです。同窓会の皆様の中にも、鉄道好きの方が結構いらっしゃるのではと思います。私の鉄道趣味の初めは、北海道の蒸気機関車の撮影です。蒸気機関車や変わった鉄道が好きです。もちろん色々な鉄道に乗ったりするのも好きです。今回は、北大の学部時代から調べている北海道の小さな軌道(殖民軌道・簡易軌道)の話をしたと思います。長らくその探求をしています。時々論稿を書いたり講演したりもします。ASEANやFTAに関する講演とともに、こちらの講演も時々行っています。

殖民軌道・簡易軌道は、北海道だけに存在した開拓のための特殊な国有の軌道です。軌間が762ミリの、いわゆるナローゲージの小さな軌道です。中でも、その代表と言える「鶴居村営軌道」をずっと調べて来ています。

殖民軌道・簡易軌道は、1910(明治43)年度に始まる北海道第一期拓殖計画末期の1924(大正13)年より建設されました。北海道庁は、泥炭地や火山灰地などの道路事情の悪い道東や道北の入殖地に対して、殖民のための軌道を設けることとしたのです。最初の殖民軌道は、道東の中標津ー厚床間に敷設された殖民軌道根室線でした。当初は馬力線(いわゆる馬鉄)で、途中からガソリン機関車も使用されました。第2次世界大戦後には、ディーゼル機関車や自走客車(簡易軌道に特有のディーゼルカー)も使われました。1942(昭和17)年からは、「殖民軌道」という名称とともに「簡易軌道」という名称も使われました。また戦後には運営が村に移管され、「村営軌道」とも呼ばれるようになりました。

殖民軌道雪裡・幌呂線（鶴居村営軌道）は、根室線に続いて1928（昭和3）年に建設された、最も歴史の古い殖民軌道の一つです。鶴居村と釧路（釧路駅の隣の国鉄新富士駅）を結んでいた軌道です。支線も合わせて、総延長約48キロの軌道でした。この軌道の走っていた鶴居村は、広大な釧路湿原をはさんで釧路市の北に位置します。村名の由来となったタンチョウ鶴の生息地としても有名です。現在は酪農で豊かな村です。

鶴居村営軌道は、40年にわたり村民の貴重な交通手段として活躍しました。一般の旅客と貨物の列車とともに、通学のための列車や修学旅行列車、釧路へ花火を見に行くための列車も運行されました。まさに住民の生活に密着した交通手段でした。

しかし通年運行が可能な舗装道路が作られるようになり、役目を終えて、1968（昭和43）年に全面廃止となりました。他の簡易軌道も1972（昭和47）年には、すべて廃止されました。

鶴居村営軌道では、第2次大戦前から、他の軌道には見られないバス改造ガソリンカーが走ったり（熊本の山鹿温泉鉄道などとともに、全国でもきわめて稀です）、特有の小さなディーゼルカー（「自走客車」が正式名称です）が走ったりしたことも、面白いです。



鶴居村ふるさと情報館「みなくる」の前庭に保存される機関車と自走客車。

この軌道の探求の原点は、1985年の冬に北大の研究会の後輩達と行った2回の4泊5日での現地調査です。多くの資料収集とインタビューをすることができました。一緒に調査した後輩達とは、今でも調査の思い出で盛り上がりします。1986年には、後輩の飯塚君と『鉄道ピクトリアル』に「鶴居村営軌道」の論稿をまとめています。1985年の調査の際にお会いした元軌道運転担当の小野正彦氏とは、2016年に再会して以来、毎年お会いしています。

その後、1999年9月の鉄道史学会全国大会（釧路



自走客車の前で旧鶴居村営軌道運転担当の小野正彦氏と

公立大学）の共通論題「鉄道と地域開発—北海道を事例として—」では、「殖民軌道・簡易軌道に関する考察」を報告させて頂きました。同報告を基に『鉄道史学』第19号に論文「殖民軌道・簡易軌道に関する考察」も発表しました。また2016年からの釧路市立博物館の企画展（釧路・根室の簡易軌道）にも協力し、講演や記録集の共同編集にも関わりました。

昨年2019年9月の鉄道史学会全国大会（釧路公立大学）でも、「北海道の殖民軌道・簡易軌道」を講演しました。丁度、石井幸孝JR九州初代社長も、「北海道の鉄道の『危機』と未来——国鉄改革の評価と課題」を基調講演されました。石井元社長とは、学会や道東の簡易軌道遺産を巡るエクスカッションでも、ご一緒出来ました。今度は、九大経済でもご講演頂きたいと思っています。2018年には簡易軌道が北海道遺産となり、その関連で2019年11月の「簡易軌道シンポジウムin鶴居村」でも、鶴居村営軌道について講演させて頂きました。

鶴居村のふるさと情報館「みなくる」の前庭には、かつての自走客車とディーゼル機関車がきれいに整備されて保存されています。両方とも札幌のメーカーの泰和車輛製です。自走客車は、バスに似た小さな車両です。また独特の大柄な貨車（釧路製作所製）や軌道自転車も保存されています。館内に軌道の展示もあります。

鶴居村に行っのんびりするのでも大変楽しいです。鶴居は丹頂鶴で有名で、秋や冬には多くの丹頂鶴を見ることが出来ます。多くのカメラマンも来ています。雄大な釧路湿原もあります。釧路湿原展望台から見ると、釧路湿原の中をまっすぐに進む一本の小道が見えますが、それが鶴居村営軌道の跡です。また鶴居には美人の湯で有名な温泉や特産のチーズ（昨年10月の『日本経済新聞』土曜版の「Nikkeiプラス1」で、「コクを楽しむ国産チーズ」が2位

にも！）もあります。是非一度、訪問してみてください（またご賞味下さい）。鶴居村は釧路からバスや車で1時間ほどです。釧路と網走と結ぶ釧網線には、夏に釧路湿原ノロッコ号、冬にはSL湿原号も走ります。釧路で北の魚を食べるのもお勧めです。

遠軽町の丸瀬布森林公園いこいの森には、かつてこの森林鉄道で使われていた蒸気機関車「雨宮21号」とともに、かつて鶴居村営軌道で使われていた小さなディーゼル機関車が、動態で保存されています（札幌の運輸工業製。「鶴居DL」と呼んでいます）。この機関車の保存については、北大の大学院の頃に、大学の後輩の今井君と、復元保存の要望書を丸瀬布町（当時）に出した事があります。簡易軌道で、唯一の動態保存車両です。雨宮21号との同時走行の催しもあり、きわめて貴重な2両の動態保存車両です。是非、実際に列車にも乗ってみて下さい。いこいの森でキャンプや近くの温泉宿泊もお勧めです。



丸瀬布森林公園いこいの森に動態保存される旧鶴居村営軌道のディーゼル機関車

これからも殖民軌道・簡易軌道の探求を続けたいと思います。九大経済の同窓生の皆様とも、色々な鉄道話をしたいと思います。また同窓会でお会いしましょう。

【参考】清水一史・飯塚卓治「鶴居村営軌道」『鉄道ピクトリアル』36巻10号、1986年／清水一史・今井理『「丸瀬布いこいの森」に動態保存される簡易軌道のDLについて』『鉄道ピクトリアル』46巻3号、1996年／清水一史「殖民軌道・簡易軌道に関する考察」鉄道史学会『鉄道史学』19号、2001年／石川孝織・奥山道紀・清水一史・星匠編『釧路・根室の簡易軌道』釧路市立博物館、2018年（改訂版）／清水一史「北海道の殖民軌道・簡易軌道」鉄道史学会『鉄道史学』38号、2020年（近刊）。（もしもご関心ある方がいらっしゃれば、どうぞご連絡下さい。コピーをお送りします）

.....

## 鉄道の絵本～その魅力とお勧め作品の紹介～



経済学研究院講師

平野 琢氏

この度は、伝統ある同窓会報にて大好きな鉄道について執筆させて頂き、同窓会、編集部の皆さんに感謝に堪えない幸いです。さて、既に先輩の皆様が見識深い「鉄学」について原稿執筆しておられるので、本稿では「鉄道の絵本」という少し変化球的な話題を書いていきたいと思います。

「鉄道は写真集や専門誌ではないの？」とおっしゃる読者の方もおありかもしれませんが、鉄道や鉄道旅行が物語の主軸にある絵本はととても多くあります。しかも、ストーリーが秀逸なもの、鉄道の描写が緻密なもの、絵を見ているだけで楽しめるものなど様々な作品が存在します。また、鉄道の絵本はその時代の社会や文化と一緒に織り込んで描いたものが多く、作品を読むことは、その時代の社会の様子を間接的に知る手掛かりとなることもあります。

そして、「鉄道の絵本」はととても長い歴史を持っています。例えば、皆さんが「鉄道の絵本」と聞いて最初に思いつくキャラクターであろう「きかんしゃトーマス」は、今からなんと75年も昔の1945年にイギリスで創刊した「汽車のえほん」シリーズに登場するキャラクターです。日本人作家による「鉄道の絵本」の創作の歴史も長く、現在（古書店も含め）入手可能なものに限定しても、古くは1930年代末や1940年代初頭の作品を確認することができます。例えば、様々な乗り物を描いたことで有名な、安井小弥太さんは「きしゃ（汽車）」をはじめ、多くの作品を描いており、その細かな描写や独創的な絵の構図は現代でも読者を魅了します。

現在でも、図書館や書店の絵本コーナーには「鉄道の絵本」が多く並んでおり、子供たち（おそらく未来のてっちゃん同志！）が熱心に作品を読む、ほほえましい姿を目にします。また、最新作の中には大人も子供と一緒に楽しめるものも多くあります。「鉄道の絵本」は、時代を超えて子供から大人までの心を引き付ける魅力を持っているものと言えます。

さて、前段が長くなってしまいましたが、ここからは、誠に僥倖ながら人生40年でのべ200冊近い「鉄

道の絵本」を読んできた筆者の独断で選んだお勧め作品を紹介したいと思います。

まず、ストーリーが面白いものとして推薦したい作品が林明子さんの「こんとあき」になります。作者の林明子さんは、温かいストーリーの中にも子供目線からみた「はらはらどきどき」を織り込む名手で、この作品以外にも「はじめてのおつかい」など数多くの名作があります。紹介する「こんとあき」は、主人公である「あきちゃん」が自分の大切なキツネのぬいぐるみである「こん」を、遠方に住むおばあちゃんに修理してもらうために鉄道で旅をするという物語です。この作品の魅力であり私の大好きな特徴の一つが、登場するぬいぐるみの「こん」が、普通に人間のように話し、動く点です。動いて話すどころか「こん」は、自ら切符（指定券）を手配したり、途中の駅で駅弁を買いに出かけたり、「あきちゃん」を守ったりと、物語全般で大活躍します。「自分が大切にしているぬいぐるみと会話できたらいいな！」という子供ならではの願いをまさに具現化したストーリーになっています。絵もとてもかわいらしいあたたかなタッチで描かれており、その物語ともに読み終えた読者を暖かな気持ちにしてくれます。

鉄道の描写が細かいものとしてお勧めしたいのが西村繁男さんの「やこうれっしゃ」となります。この本は1970年代の夜行急行「のと」（下り列車）が上野から金沢まで走行する様子をモデルに描いた作品です。絵本としては、鉄道表記や色彩、駅の設備等がとても丁寧に再現されており、鉄道好きでも納得できる描写になっています。また、この本の面白いところは、作中に文字で記されたストーリーが一切ないという点です。作品では、上野駅を発車して金沢に向かう夜行列車の車内の様子をととても丁寧に描いていますが、作中に文字はほとんど登場しません。故に、この本の物語は読者がその丁寧に描写された絵を通じて自由に創造することができます。この物語づくりは実に楽しく、読むたびに異なる鉄道の旅物語と一緒に読む人と共有できる点は、この作品の大きな魅力であると思います。

岡本雄二さんの「いろんなでんしゃはっしやしまーす」も特徴的な作品でお勧めです。この作品は、主人公の鉄道好き少年が家族でいろんな電車に乗って出かけるというストーリーの絵本ですが、作中に描かれるシーンは、様々な鉄道がホームから出発するシーンに特化するという、鉄道の絵本の中でも異色の作品です。登場する車両はどれもその特徴をよく捉えていて、きれいに描かれた鉄道車両は、

写真とは違う趣があります。故に、大人でも絵を見るだけでとても楽しめます。また、ストーリーが少ない分、登場する鉄道の音真似を入れながら臨場感たっぷりに読み聞かせをしてみる（結構子供には大好評です）など楽しみ方のアレンジの幅が広いのも本作品の魅力です。

最後に時代や社会の変化を感じることのできる作品としてお勧めしたいのが「はしれディーゼルきかんしゃ、デーデ」と「ぼくのママはうんてんし」です。前者は、東日本大震災時にディーゼル機関車を使用して被災地域に燃料を運んだ実際の話をモデルに創作されたお話です。ディーゼル機関車の気持ちを描写しながら物語が展開するという、絵本特有の親しみやすい表現で構成されている作品ですが、当時の緊迫感や、震災の被害の大きさ、そして何より被災下で懸命に復旧に努力する人々の姿を読み手に感じさせる内容となっています。後者は、鉄道の運転士を母に持つ子供が、不規則な勤務でなかなか時間を共有できないお母さんの誕生日を祝うために秘策を練るストーリーです。ストーリーや登場する中央線のE233系の描写の丁寧さも、とても素晴らしいのですが、私はこの作品にはもう一つの注目できる点があると考えます。それは、この作品では共働き家庭が増える現代ならではの家族交流のありようや、それまで男性社会とされてきた鉄道運転士をママ（つまりは女性）が、きわめて自然に担っているという点です。作品を通じて女性の社会進出が進む現代社会の姿を感じることができます。

絵本は本さえあれば老若男女が、どこでも楽しめるものであり、絵本を通じたコミュニケーション（例えば、親子の読み聞かせ）はとても楽しいものです。家で一人でコーヒーを飲みながらのんびりと窓辺で読むもよし、家族で登場人物の気持ちを想像しながら賑やかに読むもよしです。もし、この記事が読者皆様のステイホームの生活における楽しみが増える一助になりましたら望外の喜びです。



筆者の絵本コレクション（一部）

# 同窓生健筆模様

## 体育会系から著述家への屈曲の道

広報・危機対応コンサルタント・『山見塾』塾長  
山見インテグレーター株式会社 代表取締役

山見 博康氏  
1968(昭和43)年卒



2009年上梓の10冊目『広報・PRの基本』が毎年重版のロングセラー故、今年1月新版を上梓すると、10以上の書評の後押しで早くも7月重版！その勢いでコロナ禍での“巣籠”の産物『すぐよくわかる絵解き広報』が9月世に出た！更なるロングセラーにより我が思想拡大の功徳を祈り、昨年開塾の『山見塾』にて自ら共感共鳴者を募っています。

処女作は2002年独立時の『会社をマスコミに売り込む法』！中小企業向け初の本として西日本新聞に写真付きで大きく紹介され、講演の依頼を頂くなど軌道にのり、毎年出版により20冊を超えたのです。

1945年飯塚生まれ、中1からバスケットに熱中、小柄ながらも中3で主将として県大会初優勝、嘉穂高校でも県・九州を制覇しインターハイへ！両決勝とも同じ相手で僅差の逆転優勝が「一片の紺碧が空にあるかぎり、天候を絶望視してはならない」（ショーペンハウアー『幸福について』）と窮地に活路を見出す体験となり、独立後、危機に遭遇した企業に、起きたことを嘆くより直ちに“好転の手を打て”と危機対応専門家として助言の源になっているのです。

一浪後経済学部に入學するも、バスケット（+麻雀）に没頭し、六本松で下宿と体育館との往復の日々！単位ギリギリで箱崎へ行けても懲りず、六本松との往復に明け暮れた…その猛練習の甲斐あり県リーグ戦では、福大には未勝利なるも西南大に勝ち2位になるなど健闘、「小なりと雖も強たれ」を励みに「個人ベスト5+インカレ2回出場」は内心の誇りです。「亭々舎」でのコンパにおける垂水春雄先生（バスケット部長）の御挨拶に「ひたぶるな努力は美しい！」とのお言葉を心に刻み、爾来、浅学を憂い非才を嘆じるより、“有能でなくとも、有用であれ”と“ひたぶるな努力の継続”を心掛けています。しかし、殆

ど授業に出なくて先生方に合わせる顔はありません。就職は“バスケットで立身”の願いは叶わぬとも、A無き輩を“拾う神”あり！1968年神戸製鋼入社後、人事・鉄鋼営業を経て輸出部では、初の海外出張！更には、1977年カタル製鉄プロジェクトに従事しドーハ駐在…と英語が好きだった中学からの念願を果す！

1979年広報係長として帰国、爾来一貫して広報に携わることになったが、これが今の仕事に繋がるとは知る由もなし！1981年広報課長の後、日豪国家協力「褐炭液化プロジェクト」に派遣され4年半メルボルンにも駐在、91年広報部長後、独デュッセルドルフ事務所長として三度目の海外に勇み、3年駐在中、奇しくも人生の転機を自作自演…神戸製鋼と伊・ランボルギーニ社との提携によるスーパーカー商業化という日独伊の国際コラボを企て、1997年帰国時に、家族バトルにも屈せず意を決してベンチャー企業へ転身した！が、折からの金融不安で半年足らずで断念！無謀と笑った人達から“やっぱり”との嘲笑を背中に感じつつ、経営コンサル会社を経て、図らずも”2002年独立の道を選び、現在コンサル、講師、執筆等で生業中です。

ここで、我が広報思想をご理解頂きたく存じます。なぜ知名度を上げ有名になりたいのか？への解に本質あり！世界のHero宇宙飛行士若田光一さんの偉業が報道され、若田さんが我が同窓生と知った時、OB・現役のみならず、福岡県民も喜び、誇らしく思ったでしょう。藤井聡太棋聖や2冠達成時のフィーバーも！つまり、偉業の大きさに比例して世界に拡がり、喜び・誇らしさは身近になる程深くな



るのです。しかも有名になれば自律心が芽生える！それが会社なら、誇りと自信を持った社員はこぞって良い商品を作ろうとし、喜ばれるサービスを提供したくなる。顧客が増え業績も上がると、顧客や取引先も喜び、誇りを抱く。誰もがHero・Heroineに夢・憧れを抱くのと同じ…これが本質です。そこで、広報の努力を怠り軽視する幹部や社員は、次の3つのチャンスを逸しています。1. 説明責任を果たすチャンス。2. 業績向上のチャンス。3. 人に喜び・誇り・自信・社会的責任の自覚と自律心を与えるチャンス。

広報の重視は、義務・使命であり、その軽視は、怠慢・傲慢！広報の無視は、「或ることを為した為に不正であるのみならず、或ることを為さない為に不正である場合も少なくない」(アウレーリウス『自省録』) 不作為の罪！なのです。大金で“有名”を買っても、品質が劣り、社員の対応に配慮を欠けば、信用失墜、炎上で忽ち滑落する。言葉で飾り、化粧が過ぎると必ず暴かれます。正統には、社員の品性・製品の品質・会社の品格の「三つの品」が常に進化・高度化するのに比例して知名度が向上していくプロセス…が理想。つまり、知名度アップの何倍ものリスク増大を常に恐れ、「三つの品」向上の仕組みとその下落阻止・改善体制を構築すべきです。

真の広報活動とは、善い商品が記事に→有名に→社員に喜び・誇り→善い商品・サービス提供→顧客が喜び→業績拡大→より優れた商品提供…つまり、周りの皆に喜び誇りを与え、敬愛される企業にする長期的な経営活動を循環させることなのです。

従い「私の言動が(自社名)です」と言える「真人間」、つまり、自分が代表者だ！との自負心・自尊心・自律心を持つ社員を育てるのです。小手先では長続きする道理はありません！実は“自分も何かの・次へのメディア(媒体)”なのです。よりメディア価値を高めて引き継ぎましょう。

私の著作の動機は、「成形の功德」= 形を成せば光を放つ(森信三『修身教授録』)との一会です。ばらばらの写真をアルバムに成形すると末代迄楽しめる！祝典での正装や額に入った絵画も、古典やオペラも成形で功德を与える。良い部品を集め成形した車やパソコンが役立つように、著作とは、知識経験を言葉で繋ぎ文章化して形を成すこと！企業も社史にすると末永く遺る。従い私は誰にも本の出版を薦めます。同窓の士も是非自らの足跡を本に！

今も、2013年上梓『企業不祥事・危機対応広報完全マニュアル』の新版を執筆中で年始に再上梓予定。「日本ペンクラブ」会員でもあり一介の著述家とし

て異分野のテーマへの挑戦も余生の楽しみです。安倍晋三首相の突然の辞任による菅義偉新体制においても、新常态におけるリモート時代が続く中、暫し立ち止まり自問自答、「果して自分は“Essential Worker”なのか？」と！九大生たる者は、三独= 独自独特独創の自分であり、三独の仕事をし、三独の人生を送る…「人間の幸福は自己の優れた能力を自由自在に発揮するにある」(アリストテレス)のです。自分が、自分の能力に恥じない・値する仕事を自分に命令し、断固遂行させましょう。

2019年発足「九大CEOクラブ」の末席にて若手支援に何か貢献も…母校の誇りを胸に、母校の名声高揚に何がしかの役立ちを自らに期待し、願っています。こうした独りよがりの人生故に、日頃愛吟する一句を…。「真砂なす数なき星の其の中に 吾に向ひて光る星あり」(子規)。

.....

### 「企業行動の経済学」 —グローバル化の現実と課題—



折尾愛真短期大学  
前准教授(現非常勤講師)  
**市川 順一氏**  
1974(昭和49)年卒

私は、昭和49年3月に経営学科(川端ゼミ)を卒業し、現在のパナソニックに就職いたしました。35年間勤めた後、半年間の別会社勤務を経て、58歳から大学教員を11年間勤め上げました。大学教員も昨年で何回目かの定年を迎え、現在は非常勤で教鞭をとる傍ら、ビジネス系、異文化研究系の学会活動、北九州市の市民カレッジや小規模ではありますが、勉強会等に呼ばれての講演活動など行っております。まだまだ、「生涯現役」をモットーにいろんなことに首を突っ込んでいくつもりです。

本書を著したきっかけは、出版社である「中川書店」様から、強く勧められたことがスタートで、大学で経済学系の科目を担当する際に学生に対し、分かり易く説明できる取っ掛かりのテキストとして編纂しようとしたものです。

昨今、大学では、経済学系学部は、学生に人気のある分野だと言われて、現に日本中に多くの経済学系の学部・学科が存在します。人気の理由はなにかと探ってみれば、例えば、「就職が有利」、「入学後

の単位取得が比較的容易」等が多く「経済学を勉強したい」など、学問的・知的興味から経済学を選んだ学生はあまり多くないのが現状だと思います。

社会のグローバル化・ボーダレス化の進展は恐ろしく早く、一国だけでは解決できないことばかり山積しています。そういう中である面、経済学の役割は非常に重要とも言えます。持論ではありますが「経済学とは社会を勉強するものである」と、私は常々学生に授業などを通じ話しております。その「社会の問題」を「企業の活動・行動」に具体的な事例を見つけて検証し考えていくことが、本書の狙いがあります。私には、企業で35年に亘るビジネス実務経験があります。ただ、その折には、目の前の業務を片付けることに精一杯でしたが、今、研究者の立場になって、ようやく企業活動を冷静に捉え分析することができるようになりました。

日本では多くの人が、何らかの産業に属することを望みます。その中でも、「企業」、「団体」等に属する人の数は相当なものです。だからこそ企業の活動を分析することは、社会を分析することと言えると考えています。およそ、「企業活動・企業行動」は「対応してソリューションする」の積み重ねです。企業にとっては、「将来構想・未来の姿(あるべき姿)」を考えることは、極めて重要であります。しかしながら、「現在の対応」を間違えると全てを失ってしまいます。経営には「今」が大切なのです。「今をしっかりと生きる」で将来を考えることができるのです。企業の経営に必要な4つのSすなわち「Strategy(戦略)、Stamina(スタミナ)、Spirit(精神)、Speed(スピード)」を考える時、これを一口で言ってしまうと「対応力」という言葉になると思います。「問題やリスクに対し、待ったなしで適切な対応をスピーディーにかつ確実にける」企業こそ、いわゆる「勝ち組」企業と言えると思います。本書では、企業における「海外展開」、「外国為替影響」、「企業組織のあり方」等をそれぞれのテーマに設定し、「リスク対応」、「収益構造」などの問題も



からめながら、具体的に実証・検討を加えています。「なぜ、その行動をとるのか」など現実の問題をテーマにしています。例えば、「海外展開」の問題では、なぜ、海外へのシフトがなされたのか、さらに収益構造などに問題はなかったのかなど考えました。海外シフトは種々の業種、あらゆる分野で展開されました。安価なコスト(人件費等)を求めて海外にシフトしましたが、うまく機能しなかったこと、思わぬリスクに遭遇するなど、問題も噴出してまいりました。また「外国為替」については、いわゆる為替変動の認識構造影響とは何なのか、いまだにこれまでの意識構造(例えば輸出企業にとって円高は不利等)は変わらないのかなど検証してみました。さらに、これからの企業の「組織のあり方」についても具体的に考えてみました。迅速で適切な「意思決定」を行うことができ、且つ、「スピード感を持った対応」ができるのは、どういう「組織」なのか。いわゆる「強い組織」とはどういう組織なのか等の問題を深めてまいりました。また、この「強い組織」は学生に対する大きなテーマとして与えました。「現実の事象を捉えた企業行動の実証」を通しての「社会に対する検証・実証」こそが、本書の目的であり、私の求めるところでもあります。そのうえで、「経済・社会」に対して多くの興味を持っていただきたいと願います。

本書の執筆・刊行にあたりましては、勤務している折尾愛真短期大学学長の増田仰先生、副学長の増田賜先生には多大のご支援を頂戴いたしました。素晴らしい研究環境のもとで意欲を持って執筆に専念できました。また、出版の機会を提供いただいた、中川書店の中川信介様にも感謝申し上げる次第です。

尚、余談ではありますが、本書の表紙カバーは世界のビジネスの中心とも言うべき、ニューヨークに出向いた時にマンハッタン島をハドソン川越しに、私の個人のカメラ(スマートフォン)で撮影したものをモチーフにしています。何かしら、日本のビジネスシティーの東京と似た感じを受けるのは私だけでしょか。



中川書店  
2016年5月1日発行

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

## Ambitious City —福岡市政での42年—



経済学部同窓会福岡支部副支部長  
株式会社博多座 代表取締役社長

**貞刈 厚仁氏**  
1977(昭和52)年卒

新型コロナウイルスの蔓延という大変な時にかち合っていました。昨年3月まで

務めた福岡市政での経験を回想した「Ambitious City—福岡市政での42年」(松影出版)を去る2月に出版しました。

1977年に福岡市役所に入庁して、アジア太平洋博覧会、九大統合移転先の用地買収、博多リブレイン・スーパーブランドシティ破綻の後始末、福岡オリンピック立候補、教育委員会改革、そして「アジアのリーダー都市」を目指す高島市政でのFUKUOKA NEXTの推進…と数々の事業に携わった経験を記述しました。

出版するきっかけは退任直前に福岡市研修所から寺子屋塾特別編として講話をしてもらいたいとの申し入れ。いろんなことにチャレンジしてきた福岡市での経験と、そこから学んだことを後輩たちに伝える良い機会と思い喜んで引き受けました。当初は、講話録として印刷するつもりが、塾生の要望もあって大幅に加筆して出版することになった次第です。

内容的に主なものを拾いますと、まず、1989年に開催されたアジア太平洋博覧会。市政100周年記念事業として福岡市は元より企業・団体・市民の皆さんの協力を得て開催されました。入場者数は823万人と目標を大きく上回り、アジアに目を向けた博覧会として成功を収めました。会場に足を運んでいた同窓生の皆さんも多いかと思います。会場の中心にアジア太平洋ゾーンがあり、その企画・実施責任者として体験したエピソードや写真を掲載しており、懐かしく読んでいただけるのではないかと思います。アジアの交流拠点都市づくりを進められた当時の桑原市長の功績や、博覧会後に引き継がれた事業、特に福岡アジア文化賞について記しております。

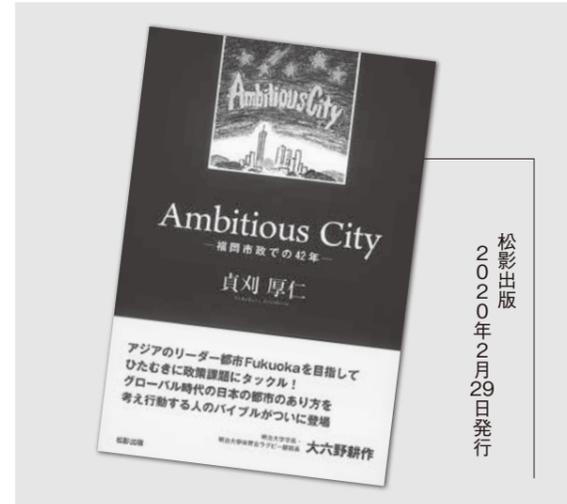
係長時代には伊都地区への九大統合移転事業に携わり、275ヘクタールに及ぶ用地買収を担当した際

の経験を記しました。事業も始まったばかりで決まっているのは西区の元岡・桑原地区ということだけ。住民説明会から始まり予定区域内を踏査しての境界画定、ブロック分けしての価額設定、900人以上の地権者との団体交渉、地域活性化と周辺整備等々に福岡市土地開発公社のベテラン職員と共に取り組みました。あまり詳細は記していませんが当時の現場の雰囲気は感じていただけるかと思います。

次に、博多リブレイン・スーパーブランドシティ破綻の後始末については、オープンした翌年から破綻の危機に陥った商業施設を民間売却すべく都市開発部長として奔走した経験を記しました。金融機関に約450億円という巨額の債権放棄をしてもらっての再出発になりましたが、バブル経済下での杜撰な計画、勢い任せでリスクヘッジのなされていなかった大規模再開発事業の後始末の様子に、当時の世相を思い起こされる方も多いのではないのでしょうか。その後リーマンショックが起り、今年コロナショックが世界を覆っています。予期せぬ事態も踏まえて、どんな心がけで仕事を進めるべきか私見を述べています。

副市長時代については高島市政が進めるFUKUOKA NEXTの推進について記しました。こども病院移転問題やアイランドシティ分譲推進といった長年の課題解決に加えて、天神ビッグバンやスタートアップ推進という意欲的な事業についての経緯や現在の取り組み状況について記しています。天神ビッグバンは国家戦略特区の指定を梃子に規制緩和により福岡市の都心再開発を促進するもので、既にいくつものプロジェクトが実行に移されています。10年後には天神の街並みも大きく変貌しているでしょう。スタートアップについても福岡グロースネクストを拠点にして自治体のトップランナーとして精力的に施策展開しています。そんな様子を知っていただければと思います。

元が職員研修を契機に出版したものですから、後半には「次代を拓いていく皆さんへ」として若い市職員に向けて仕事への向き合い方について記しました。仕事をしていると色々な壁があるわけですが乗り越えて自己実現してもらいたいと願っています。市職員に限らず新しく社会人として巣立つ皆さんにも役立てば幸いです。最後に「アジアのリーダー都市を目指して」ということで福岡市にエールを送りました。付章として日本都市学会で行った基調講演を記載しています。福岡市の都市政策の流れと今後の方向性を俯瞰していただければと思います。



文中随所で現在の高島市政について述べています。「日本で一番元気がある街」とも呼ばれる福岡市の成長要因は何かという問いにもお答え出来ていると思います。また、「コーヒープレイク」として、九大入学後から取り組んだ〈アイスホッケーの話〉、父と一緒に向かった〈シベリア慰霊の旅〉、副市長退任後に妻と二人で参加したトレッキング〈世界で最も美しい散歩道(NZ・ミルフォードトラック)を辿る〉を挿入しました。

## リレー随想

### 恩師たちの授業と試験



小金丸行政書士事務所  
**小金丸 顕氏**  
1979(昭和54)年卒

現在行政書士をしています小金丸です。2019年12月7日ホテルニューオータニ博多、木下悦二先生の白寿をお祝いする会にて福留久大先生より「リレー随想」の執筆依頼を受けました。私はこの「リレー随想」を大学4年間(留年はしておりませんが、一浪はしましたが)に受けた講義を中心に書きたいと考えております。そうは言っても卒業して40年、記憶において不正確な点が多々あると思いますが、読者皆様のご寛容をいただきたくお願い申し上げます。

九大経済学部同窓生の皆さんであれば、60歳を過ぎて「私の履歴書」を書ける方は多いと思います。私より苦勞された方、活躍された方、立派な方はたくさんおられるかと思えます。在学中はアイスホッケー浸りで何とか卒業した学生による「福岡市政での42年」ですが、読んでいただき人生を重ねていただければと思います。

手前味噌になりますが、読んでいただいた方からは「息子に読ませたい」「心に残る言葉がいくつもあった」「元気をもらった」等の有難い感想が寄せられました。また、毎日新聞の元編集局長さんからは「最高の読後感」との望外の評をいただきました。本は、福岡市内ですと新天町の金文堂等の書店の他、アマゾンでも取り扱っています。松影出版(Tel.092-622-7971)に直接注文していただくことも出来ます。

昨年6月から(株)博多座の社長を務めています。新型コロナウイルスの拡大に伴いこの2月末から10月の宝塚歌劇公演まで北島三郎ショーを除いて中止という開場以来の危機的状況ですが、何とか乗り越えて博多座の灯を後世に引き継いでいく覚悟です。

まずは箱崎での深町助教授(当時)、先生は金融論と貨幣論の2つの講座を持っておられました。成績は貨幣論は優、金融論は良でした。優をいただいた貨幣論の試験問題は二者択一、その一つが「価値形態論と交換過程論について論ぜよ」、予告試験問題です。先生は岩波書店より出ている久留間鮫造著『価値形態論と交換過程論』を読むように指示されました。他によく言及されたのが、平田清明著『経済学と歴史認識』でした。余談ではありますが、宇野弘蔵氏の『経済原論』と『恐慌論』は、現在でも岩波文庫で読めますが、実を言うとこの2冊は還暦を過ぎてから読んだのですが、この久留間先生の本も岩波文庫での復刊を希望します。

次は教養部での福留先生の講義、六本松における経済学の講義、テキストは岩波文庫『賃銀・価格および利潤』、その英書、副読本が2冊、その1冊は岩波全書、日高普著『経済学』、この本については、現在新潮文庫『いま生きる階級論』の中で佐藤優氏が読むようにすすめています。また有斐閣より日高著『経済原論』も出ています。講義で使われたのは岩波全書、この記憶に間違いはありません。この本は現在でも購入することが出来、私はアマゾンにて

購入し、久しぶりに再読しました。もう1冊は経済学者の学説を紹介した本だったと記憶しております。先生の試験も問題量はそれは大変なものでした。問題の中で一つ記憶しているものがあります。労働者の賃銀に家族の扶養費は含まれるか。成績は78点、良でした。箱崎では、特殊講義「資本の原始的蓄積」も受講し成績は可でした。

次は恩師である木下先生が招聘された安東盛人氏の講義。テキストは有斐閣の『国際金融教室』で、氏はまた『外国為替概論』を同出版社から出されており、この本については木下先生が講師紹介の際に言及されました。講義内容は石油ショック、成績は優でした。安東氏は東京銀行勤務、東京大学の経済学博士号をお持ちです。ここから脇道に逸れますが、在籍当時、石油ショック、就職難を経験した私は安定した職を求め富士銀行に入行、5年後にはその銀行を退職し、職安（当時）へ、職員から何故にこんな大銀行を退職したのかと質問されたのを覚えております。その富士銀行も今やなし、前述した東京銀行もなし、当時、経済学部生憧れの日本興業銀行、日本長期信用銀行もなし。銀行退職後には、代々木ゼミナール勤務、5年後にはこれまた退職。こりゃサラリーマンは無理ということで地元飯塚で塾を始めました。少子化が進み、塾だけでは食えぬと行政書士を目指し3回目で合格、平成19年9月1日に行政書士登録、現在に至ります。親しい行政書士仲間からは小金丸は行政書士試験含め1回で試験に合格したことがない、さらには小金丸が勤務した会社は経営難に陥るとよくからかわれております。今も行政書士で結局この仕事が一番長く続いております。

さて、木下先生の講義ですが、テキストは有斐閣の『世界経済論』でした。これまた試験問題も記憶しております。先生自ら試験のある教室に来られ、口頭にて、「戦後世界経済の中で最も重要な出来事と思うものを挙げ、それについて論ぜよ」。成績は優でした。この講義で今でも記憶していることが二つあります。一つはスエズ危機、輸出禁止で苦しめられているエジプトをソ連（当時）が援助したこと、資本主義が自分自身の法則を貫くことが出来なくなった。二つ目は、或る恐慌時の話です。子「母さん、寒いのになぜストーブに火をつけないの？」母「石炭を買うお金がないのよ」子「どうして石炭を買うお金がないの？」母「父さんが失業したからよ」子「どうして父さん失業したの？」母「石炭が余り過ぎて失業したのよ」。令和になっても、私にとってマルクスはモダンであります。先生は他にドイツ語の原

書講読を担当されておられましたが、これは受講しておりません。

次にゼミについて。ゼミに入るために課題図書を読み、レポートを提出しなければなりません。何十年ぶりにゼミ生と一泊二日の旅行をした際に話したのですが、その課題図書の題名は忘れてしまいました。ものすごく難解であったことだけは今でも記憶しており、木下ゼミに入ることを許されたら、これはしっかりと学問しないとイケないと感じました。ゼミでは、『経済白書』、レーニン『帝国主義論』、ガルブレイス『豊かな社会』など精読しました。木下先生の下で本を読むとはいかなることか、さらには社会科学的思考とは何かを学ぶことが出来ました。これらのことは行政書士として日々を送っている私にとって大きな財産となっています。法律書も精読することは必須でありますから。高校までは独りよがりの読み方をしていましたが、木下先生の下でそれが是正されたことは確かであります。

最後にこの「リレー随想」を終えるにあたり、木下先生の下で社会科学的思考法を学び、社会現象の背後にある法則をいかに見つけ出すかを学び得たことは幸福なことでありました。さらに白寿のお祝い会で講義された米中激突論がいかにタイムリーな話題であることか。この講義の中に、E・H・カーが述べた、歴史とは現在と過去との対話であるということが具現化されていることを痛感したのでした。

## リレー随想

## 九州大学経済学部から広がる人の繋がり



(一社)九州観光推進機構  
玉置 誠司氏  
1985(昭和60)年卒  
2006(平成18)年QBS修了

### 1 深町郁彌先生の思い出

筆者は1982年、3・4年次の演習の履修にあたって深町郁彌先生の指導を得た。そして、九州大学経済学部長、九州電力（株）監査役として、また、ご病气から回復されて後も毎年ゼミの仲間とともに、先生のご自宅にお邪魔しお酒を酌み交わし様々な話題を議論することが出来た。いつも真夜中まで長居をし、奥さまに本当にお世話になった。あらためて

奥さまに感謝申し上げます。

深町ゼミは金融論でその特徴は、3・4年生の合同ゼミで、何よりもお酒が大好きであった。そのため、上下間のコミュニケーションがよく、特にゼミでの真剣な議論は、興味深く面白い反面、先生からの質問への対応は大変であった。先生の質問は高度で、かつ、多方面から考察されるため、理解が難しく、助手の方でさえ議論についていくのも難しい程であった。特に「問題の本質は何か」を的確に掴むことに指導の重点を置かれた。ある時、山口県の萩でゼミ合宿があった。午前中の勉強の後、午後には吉田松陰の松下村塾や毛利家の菩提寺などをめぐり、民宿に帰った後、夕方からお酒を飲みながら、深夜まで、ヒルファーディングの金融資本論を議論した。依然として金融マネーは国境のない傍若無人な世界の脅威であり、コントロールの難しい問題の一つである。とにかく、面白いと感じたのは、先生が大局的に問題の本質を捉え、分かりやすく現代の問題にたとえて説明されることであった。その幅広い知識と深い洞察力に先生の絶え間なく鋭い探求心を感じた。

ゼミの先輩・後輩の交流は、世代を超えた繋がりであり、その絆は強いものであった。ゼミ生の総人数は学士、修士、博士課程など304名である。毎年、正月に先生のお宅にお邪魔するのが恒例の行事であり、東京など遠隔地に勤務の方も、赴任地に戻る前に、先生のご自宅に来られ、新年の挨拶と近況をお話しされた。その一人は、熊本学園大学の留学生で、中国人民銀行のトップの一人になられた。

ある時、突然、当時の九州大学経済学部長川波洋一教授から深町先生の瑞寶中綬章の叙勲のお祝いの会をゼミ生で企画してほしいとの依頼があった。そのため、梅原晋氏、永原聖也氏、丸林敏氏と私を中心に2009年5月に福岡と東



深町郁彌先生ご夫妻

京で祝賀会を実施した。発起人を当時の名城大学大庭清司教授、熊本学園大学坂本正学長、西南学院大学及能正男教授、九州大学大学院川波洋一研究院長、九州大学岩田健治教授にお願いし、ゼミ生を中心とした計250名の祝賀会であった。祝賀会では如水庵の森恍次郎先輩から多数のお菓子をいただいた。また、松尾新吾氏、貫正義氏をはじめゼミ生以外計52名の皆さまから記念品に賛同をいただいた。改めてお礼を申し上げたい。

先生の教育に対する情熱は年を取られても衰えず、九州情報大学などで教鞭をとられ、夏の暑気払い、正月など機会があるたびに、ご自宅でベルギーのビールなどを飲みながら夜遅くまで談話した。また、奥さまも我々の飲み会に常に付き合っていた。ある時、深町先生に次回、本を執筆されるとするなら、何について書かれますかとお尋ねしたことがある。先生は、貨幣を象徴として位置付けることを可能にする「国家」について書きたいと言われた。祝賀会の後に先生に揮毫していただいたのは「今、私が求めているのは、歴史の流れです。」という言葉であった。世界中でコロナウイルスが蔓延し、ウイルスとの共生という不透明な時代に臨んで、先生はどのように思われるか。是非、先生の国家論を読んでみたかった。時代の転換点へ何らかの示唆を与えていただけたかもしれない。現在でも毎年、ゼミの同期や会社のメンバーで深町先生の思い出を語る会を東京や福岡で開催している。振り返れば公私を問わず多くの相談に乗っていただいた。これほど面倒見のいい先生はどこにもおられない。そんな父親のような先生を九州大学はこれからも数多く輩出していきたいと切に願っている。

### 2 九州大学ビジネススクール (QBS) について

近年、大学でのリカレント教育が一般的になって





1983年 深町ゼミ朝日ジャーナルゼミ訪問

きた。私も社会人で、実践的な学びをしたいと思い、2004年4月に九州大学経済学府産業マネジメント専攻（通称QBS）の2期生として入学した。この2期生は40名と人数は少ないが、その分、結束力が硬い。当時の専攻長は塩次喜代明教授で、後に九州アジア経営塾の運営でも大変お世話になった。QBSでの経営学修士（MBA）の取得は学問的にも勉強になったほか、異業種のメンバーと信頼関係を得たことが何よりも大きな収穫であった。ゼミは小西龍治教授に師事した。QBSの良いところは、野武士的な人材が多いところだと思う。また、QBSの同窓会組織であるQAN（QBS Alumni Network）の理事となり、東京へ転勤するまでQANの活性化などお世話を行った。そして福岡に戻った後2019年12月から社団法人となったQANの代議員の一人となり、QANの寺松一寿会長と共に日本一のアラムナイ・ネットワークとなることを目指している。

### 3 九州アジア経営塾について

QBSでの経験から、2004年のほぼ同時期に福岡に設立された九州アジア経営塾（KAIL）塾長四島司（故人：西日本シティ銀行顧問）氏のもと、新規に30代前半のビジネスパーソンを対象としたプログラムを実現する役割を担った。当時KAILには、40代前半の経営者や管理職に11ヶ月間で「志と知恵」を学ぶ碧樹館プログラムがあった。しかし、設立当初に構想された若手を対象としたプログラムは未着手だった。四島塾長の常識にとらわれない「殻を破れ」という信念のもと、KAILの卒業生からのアンケートなどを実施し、3ヶ月程度の短期間で実践的な知識を修得できるプログラムを検討した。そして「講義を受けた後に、さらにもっと学びを深めたいプログラム」というコンセプトを固めた。そしてQBSの星野裕志教授の支援をいただきながら、新しいプログラムとしてKAILの30代前半を対象にし

た「ヤングエグゼクティブ・プログラム」を、慶應大学大学院のリーダー育成論高橋俊介教授、早稲田大学ビジネススクールの経営戦略論遠藤功教授、財務会計の西山茂教授など超一流の講師陣でスタートさせた。現在、幸い募集開始と同時に満席になる人気であり、実現できて本当によかったと思っている。今でもこの講師のメンバーと相談ができる関係にあり、非常にありがたく思っている。

KAILには碧樹会という卒業生の会があり、QANと碧樹会の相互の連携や切磋琢磨が相互に良い刺激になっていると感じる。QANと碧樹会は同質と思われるが、「MBA」のQANと「知恵と志」の碧樹会は大きな差異がある。それは、QANが会社にとらわれない野武士的な性格をもつ一方、碧樹会は出身会社のエリートとしての性格が強いことである。両者ともそれぞれに良さがある。ただ、近年、QBSでゼミや卒論が必須でなくなっており、野武士的な強さがQBSの強みとして今後も継続することを希望している。

### 4 九州大学柔道部について

私は学生時代から柔道部に所属し、当時から西日本銀行の右田喜章先輩にお世話になった。現在、九大道友会（柔道部OB会）の事務局長をしている。2018年9月には約40名の七大学柔道仏国遠征団に随行し、フランスのナショナルチームやボルドー大学チームとの合同練習に参加した。また、2019年には九州大学主管で福岡で実行委員として七大会を開催した。現在の柔道部長は、113番目の元素を発見しニホニウムと命名した森田浩介教授である。そのご縁で、2020年10月に私の母校の嘉穂高校で森田先生の講演会を実施する。

近年、大学で体育系クラブに入る数が少なく、九大柔道部も入部者が少ない。旧制帝国大学の七大学の柔道は、井上靖の「北の海」で描かれた高専ルールの寝技の大会で、15人戦の団体での抜き勝負である。立ち技を主とする全日本柔道連盟（全柔連）と寝技を主とする七大学の柔道は、そのルールの違いのために交流が途絶えていた。その全柔連と七大学柔道の接点は、全柔連の不祥事のため組織改革を必要としたときに、産業界を牽引する七大学柔道のOBである日本製鐵の宗岡正二会長が山下泰弘副会長とともに行った組織改革であった。現在、全柔連の山下泰弘会長が、JOC会長としてオリンピックの成功のため奔走している。

そんな中、2019年12月にオリンピック選手ら全日本強化選手と七大学選手との合同練習が味の素ナ

ショナルトレーニングセンターで開催され、私も参加した。講師は1964年の東京オリンピック金メダリスト岡野功師範であった。幸い、東京勤務で単身赴任の際、岡野師範が指導される練習に参加していたため、岡野師範と楽しく歓談することが出来た。日本ナショナルチームのメンバーや学生たちも75歳とは思えないその鋭い技と気迫に目を輝かせていた。学生には何か夢中になるものを見つけ情熱を傾けて欲しいと感じている。

### 5 結びにかえて

東京での単身赴任以来、クロマチック・ハーモニ



七大学仏遠征 (パリ) 国際柔道連盟 (筆者右から5人目)

## 人物往来～新教員紹介



岸野 早希 講師

### 【担当講義】

学部：「経済・経営学演習」  
「経営労務」「経営学」  
「外国書講読(英語経済)」  
学府：「人的資源管理特研」

### 【自己紹介】

はじめまして、2019年10月に経済学研究院に着任いたしました岸野早希と申します。

私は茨城県で生まれ、広島県で育ちました。学部時代に出会った人的資源管理という学問に興味を持ち、卒業後すぐに大学院に進学をしました。実学という側面をもつ経営学という学問の特徴から、修士課程修了後は企業に就職し、実務経験を積んでから再び博士課程に進学しようという計画を立てていました。しかし修士2年次の就職活動中にリンパ腫を発症し、休学して半年ほど治療を受けなければならず、治療との両立から企業への就職を断念し、1年の休学の後に博士課程に進学しました（現在は治療

カ、コンサーティナ（小型アコーディオン）、ウクレレを少しずつ練習している。これらは持ち運びが容易なのが一番の魅力だ。ハーモニカは腹式呼吸による横隔膜の強化に繋がり、コンサーティナとウクレレは指先の運動で老化防止に役立つ。趣味と健康を兼ねて公園などで演奏していると、子供たちが珍しそうに寄ってきて話しかけて来るのが面白い。

最近、人との繋がり、すなわち、社会的関係資本（人的ネットワーク）が、様々な活動を通じて広がることの楽しさを感じる。様々な人びととの交流は、「九州や地域の発展に尽くす」という私の行動規範になっている。

今回、深町先生と奥さまへの感謝と共に、九州大学経済学部とともに歩んできた私の近況をお知らせする機会を得たことを、大変有難く思う次第である。今後の九州大学経済学部、九大柔道部、QBS、そしてKAILの発展を願いつつ、それぞれのOB、OGが自らの「殻を破る」ことで九州や世界に貢献する人材となることを祈念している。

しており健康です)。当時23歳でしたが、その歳で大病を患うということは一切考えたこともなく、恥ずかしながら病気になって初めて死というものに身近に感じました。人間みんないつか死んでしまうのに、なぜ働くのだろう、ということを考えるようになり、これをきっかけに現在の研究テーマとなるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）に関する研究を始めました。ワーク・ライフ・バランスに関する議論については近年耳にすることが多いかと思いますが、この議論の誤った認識として子どもを持つ女性だけの問題として捉えられている点があります。厚生労働省の定義に見られるように、ワーク・ライフ・バランスは老若男女問わず、すべての働く人がその対象となっています。すべての働く人がそれぞれのワーク・ライフ・バランスを実現できる企業風土が育まれるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現に関わる要因を探求する等の研究をしています。

着任後1年が経過しましたが、経済学研究院においては素晴らしい研究環境や教職員・学生の皆様にご恵まれ、充実した日々を送っております。微力なが

ら、九州大学のいっそうの発展に貢献できるように  
精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願

いたします。



むろが きほ  
**室賀 貴穂** 講師

**【担当講義】**

学部：「経済工学演習」  
「情報処理I」  
「外国書講読(英語経済)」  
学府：「労働経済学特研I・II」

**【自己紹介】**

はじめまして。2020年4月に着任いたしました室賀貴穂と申します。出身は名古屋で、学生時代を東京で過ごし、九州大学着任前は、東京大学大学院経済学研究科で特任研究員を務めておりました。大学院生の頃は、経済協力開発機構(OECD)でのリサーチインターン、アジア開発銀行(ADB)の外部コンサルタント、ゴールドマンサックス証券株式会社でのリサーチインターンの経験がございます。

専門は労働経済学です。特に、女性の就業促進に

関心があり、政策変更が女性の就業や時間利用にどのような影響を与えるのかを実証分析して参りました。現在は、インターネットをはじめとする技術の普及が就業に与えた影響の分析を行なっております。また、女性リーダーの少なさや女性管理職比率の低さの原因を解明するために、実験的な手法を用いた研究を進めております。

講義やゼミでは、労働市場を取り巻く諸問題について取り扱っております。学生の皆さんから出る斬新な発想や鋭い意見が大変素晴らしく、彼らとの活発な議論を通じて、私も多くのことを勉強しております。

着任と同時に新型コロナウイルスの流行が始まり、右も左もわからない中でしたが、皆様からお力添えいただき、大変恵まれた環境で研究・教育活動を行なっております。九州大学での職務は身に余る重責ですが、精一杯努めさせていただきたいと存じます。これから何卒よろしくお願ひ申し上げます。

# 経済学部名誉教授の会

例年4月初めに開催してきた名誉教授の会ですが、会員の高齢化に適応した開催方式を検討中に、新型コロナウイルスの襲撃に遭い、中止のやむなきに至りました。皆様、賢明にコロナを回避しつつ、それぞれの生活と仕事に勤しんでおいでのことを祈るばかりです。

特筆すべきは、矢田俊文先生が、奥さまご逝去の悲哀の中で、著作集の6冊目として大著『公立大学論(下)一平成の大学改革の現場実践録』を3月に刊行されたことです。先生は、編集部の求めに応じて直ちに「OB健筆模様」欄に詳細な紹介文を寄せて下さいました。ただ、本号には「鉄オタ」特集を企画していましたので、先生の長文を掲載する紙幅が無くて、次号掲載となりました。大学の統治と自治を巡る貴重な証言ですので、同窓諸兄には次号を鶴首して頂きたいと思ひます。

前号の園田健夫氏「秀才は劣等生を友とする」に添えた都留大治郎先生17回忌(2004年3月27日)の集合写真について、講座を継承された宮川謙三名誉教授の姿が見えないのを不思議とされる同窓生の声

が寄せられました。宮川先生は、17回忌の時点では闘病中で出席が叶いませんでした。翌年3月12日には69歳で他界されました。同窓会の初代会長が田中定先生でしたので、門下の都留・中楯先生が同窓会の種々の業務に従事され、自然の勢いで都留先生の愛弟子の宮川先生が多くの実務を担当されることになりました。写真(1987年10月8日、於・春吉「かわさき」)は、そういう同窓会会合の一場面です。左から、同窓会理事・かわさき主人・川崎貞俊氏(1942卒)、第4代会長・谷川大介氏(1947卒)、宮川謙三先生(1956卒)。撮影は中楯興先生(1944卒)。



## 令和2年度 全国理事会報告

会長 貫正義

新型コロナウイルスの影響が全国に及んでおります。会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。本同窓会も今年3月に予定しておりました卒業祝賀会をはじめ、4月の入学オリエンテーション、5月から7月にかけての各支部総会がすべて中止となるなど、大きな影響を受けました。全国総会も開催を断念せざるを得ませんでした。会計報告など重要な議題もございましたので、6月24日オンラインによる全国理事会を開催することで全国総会に代え、重要議題を『同窓会報』本号へ掲載することで皆様へその内容をお知らせすることといたしました。議題ならびに会計報告につきましては、別添で関連資料を掲載しておりますので御参照ください。異例のことではございますが、事情を御賢察の上どうか御了承いただきますようお願い申し上げます。

なお、本同窓会の財政事情が厳しいことはこれまでお伝えしてきたところでございますが、このコロナ禍のもと、今年度の経済学部生の会費未納者は例年以上ということが予想されます。同窓会の会費をまだ納入なさっておられない社会人の皆様には、財務の改善に御協力いただきますよう、ここで改めてお願い申し上げます。

また、既に同窓会名簿の作成にかかわる葉書がサラトという業者からお手元に届いていようかと思ひます。同窓会運営費用削減の一環ということで、名簿の作成と同窓会報の発送を、以前の小野高速印刷からサラトに代えることとなりました。どうぞご理解いただきますようお願いいたします。

末筆になりましたが、会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、以上御報告といたします。

令和2年6月24日(水)13:00~14:30(オンライン(ZOOM)にて開催)

**出席者(15名)**

- <本部> 貫 正義(同窓会長・福岡支部長)、(6)卒業生名簿の作成について(報告)
- 藤井 美男(事務局長)、(7)その他
- 岩田 健治(研究院長)
- <大学> 磯谷 明德(学内理事)、
- 清水 一史(学内理事)、
- 大石 桂一(学内理事)
- <東京支部> 秦 喜秋(支部長)、
- 杉 哲男(副支部長)、
- 吉元 利行(事務局長)
- <関西支部> 太田 光一(副支部長)、
- 中野 光男(副支部長)
- <福岡支部> 貞刈 厚仁(副支部長)、
- 平井 彰(副支部長)、
- 高木 直人(副支部長兼事務局長)
- <事務局> 藤原 由美子

**議事**

- (1) 令和元年度事業報告、決算報告(案)
- (2) 令和2年度事業計画、予算(案)
- (3) 終身会員・学生会員の入会状況について
- (4) 単年度収支均衡に向けた検討について
- (5) 同窓会長任期満了・継続について

**協賛広告のお願い**

拝啓 卒業生並びに在校生におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動に対し、ご理解ご支援を賜りますことに厚く御礼申し上げます。

さて、九州大学経済学部同窓会は昭和50(1975)年、約7,500万円の基金により設立されました。平成10年頃までは会費を予定どおり納入していただき、また、平成16年度頃までは利息収入も安定していたため、東京・関西・福岡の各支部におけるサロンやゴルフ会、見学会等の活動をはじめ、同窓会報の発行、入学時のオリエンテーションや卒業祝賀会の開催、就職活動への支援、さらに学術研究員や学部・学府生、留学生への支援等々、様々な活動を実施して参りました。

しかしながら、昨今は在学生からの会費納入が減少し、さらに利息収入も減少したことから、会費収入だけでは単年度の収支均衡を図ることができず、毎年のように基金を取り崩すという事態に陥っています。当然、支出削減に向けて種々の試みを行っていますが、根本的な収支改善には至らず、財務状況がこのまま推移しますと基金は底をつき、運営資金が不足する可能性が生じています。

同窓会執行部としては、引続き経費削減と会費収入増に向けた取り組みを行って参りますが、上記の財務状況を踏まえ、会員の皆様方にも『同窓会報』の協賛広告掲載へのご協力をお願い申し上げます。現在『同窓会報』は年2回それぞれ1万1千部弱を発行し、産官学の各界で活躍する同窓生ほかにも送付しておりますので、ご協賛いただければ、大きな広告効果を期待できるものと考えます。ご協力の形は個人、法人を問いません。皆様方のご理解、ご協力を何卒お願い申し上げます。

敬 具

九州大学経済学部同窓会 会長 貫 正義

記

●『同窓会報』への広告掲載概要●

- 年2回発行しております同窓会報に広告掲載枠を設けます。
- 広告料金 1号あたり以下のおり
- 1ページ大 20万円 ・半ページ 10万円 ・名刺広告 5千円
- (広告の要項と規格につきましては裏面の例をご参照ください)
- 申込期日 春号(5月発行)⇒1月末 秋号(11月発行)⇒8月末
- 同窓会報1号あたり2頁を上限として掲載いたします。それを超えるお申込みがある場合は、次の号への掲載とさせていただきます。予め御了承ください。

【問合せ先】 〒819-0395 福岡市西区元町244 九州大学経済学部同窓会 事務局  
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560 E-Mail dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp

令和元年度決算報告

収支計算書 平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位:円)

収入の部	予算	決算	差異
会費収入	7,500,000	5,423,500	△ 2,076,500
（会員）	3,000,000	1,910,500	△ 1,089,500
（学生会員）	4,500,000	3,513,000	△ 987,000
負担金収入	830,000	530,000	△ 300,000
教員年間総会費	530,000	530,000	0
卒業祝賀会費	300,000	0	△ 300,000
雑収入	492,300	201,068	△ 291,232
受取利息	2,300	1,068	△ 1,232
名簿売上	10,000	4,500	△ 5,500
寄附金	0	22,000	22,000
広告料	480,000	173,500	△ 306,500
当年度収入計	8,822,300	6,154,568	△ 2,667,732

支出の部	予算	決算	差異
事業費	3,490,000	2,644,130	△ 845,870
会報発行費	1,800,000	1,721,200	△ 78,800
卒業祝賀会	1,100,000	3,010	△ 1,096,990
卒業記念品費	130,000	131,350	1,350
名簿代	450,000	350,000	△ 100,000
名簿データ引取費	0	438,570	438,570
会員加入促進費	10,000	0	△ 10,000
運営費	6,661,932	6,611,482	△ 50,450
事務局員費	1,471,932	1,471,932	0
会議費	10,000	35,640	25,640
通信費	1,600,000	1,671,554	71,554
支払手数料	40,000	50,357	10,357
旅費交通費	1,300,000	1,192,600	△ 107,400
消耗品費	70,000	44,337	△ 25,663
消耗雑費	70,000	45,062	△ 24,938
支部運営費	1,850,000	1,850,000	0
全国総会運営費	250,000	250,000	0
負担金	100,000	100,000	0
支部総会費(教員)	100,000	100,000	0
当年度支出計	10,251,932	9,355,612	△ 896,320

当年度収支差額	△ 1,429,632	△ 3,201,044	△ 1,771,412
前年度繰越収支差額	2,035,567	2,035,567	0
正味会費納入金から繰入	0	4,000,000	4,000,000
正味会費納入金へ繰入	0	0	0
次年度繰越収支差額	605,935	2,834,523	2,228,588

貸借対照表 令和2年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
現金預金	26,289,072		
現金	3,179	前受金	1,680,000
普通預金(西日本シティ)	1,841,697	負債合計	1,680,000
普通預金(西日本シティ2)	120,101		
普通預金(福岡)	303,781	正味会費納入金	21,774,549
郵便貯金	95,002	前年度繰越高	25,774,549
郵便振替口座(通知)	2,116,831	一般会計へ繰入	4,000,000
定期預金(西日本シティ)	21,808,481	一般会計から受入	0
		次年度繰越収支差額	2,834,523
		正味財産合計	24,609,072
資産合計	26,289,072	負債・正味財産合計	26,289,072

九州大学経済学部 国際学術交流振興基金執行状況報告(2019年度)

2020年4月より国際交流委員長に任命されました加河茂美(かがわしげみ)と申します。同窓会の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年度の国際学術交流振興基金の執行状況につきまして報告させていただきます。大きなイベントとして、2019年10月26日(土)に、九州大学・中国人民大学・南京大学の第14回3大学合同カンファレンスが「Sino Japanese Economic and Trade Relations」というテーマで中国人民大学(北京)で開催され、本局から儲梅芬先生、北原知就先生、與倉豊先生の3名が研究発表をされました。特に、本学部・学府は中国人民大学とはこれまで修士課程のダブルディグリープログラムや前述の合同カンファレンスなどで強い関係を築いており、本基金を利用して頂きまして、4月と9月に記念品の作成を行いました。また部局間留学プログラムで協力関係を築いている国立台湾大学への記念品作成代としても本基金を利用して頂きました。

学生海外派遣(アウトバウンド)に関して、大学院生の山野真拓君の中国人民大学への留学奨学金、学部生の古川拓馬君・鈴木潤君・黒木政子さんの国立台湾大学への留学奨学金として本基金を利用させていただきました。留学生受入(インバウンド)に関して、指定校である中国人民大学の留学生の王立君への奨学金としても本基金を利用させていただきました。このように、本基金はアウトバウンド、インバウンドの活性化にとって極めて重要な役割を果たしており、今後とも部局の教育・研究の国際化に向けて本基金を戦略的・計画的に利用させていただければと考えております。

昨年末から流行しているコロナウイルスにより社会と経済が大混乱しております。教育の現場も混乱状態であり、未だに対面式の授業ができていない状況であります。このような不自由な世界で教育と研究の質を如何に高めていくかを日々模索しております。学生そして教職員の健康をまず第一に考えて、緊急時の大学のあり方を検討していく必要があるかと思っております。同窓会の会員の皆様もどうかお体だけはご自愛頂き、そして今後とも引き続き一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【国際交流委員会委員長 加河 茂美】

国際学術交流振興基金による活動状況報告(2019年度)

申請者	内容	期間
【 海外派遣 】		
山野 真拓 (大学院生)	※院生等の交換留学支援 中国人民大学への留学支援(奨学金)	19.9月 ～ 20.1月
古川 拓馬・鈴木 潤 (学部生)	※院生等の交換留学支援 国立台湾大学への留学支援(奨学金)	19.9月 ～ 20.1月
肥田 勲・黒木 政子 (学部生)	※院生等の交換留学支援 国立台湾大学への留学支援(奨学金)	20.3月  (20.7月迄)
【 指定校推薦入学者(学府生)の奨学金 】		
王 立 (大学院生)	※指定校からの学府入学者への奨学金 中国人民大学からの受入れ	19.4月 ～ 20.3月
【 予備費 】		
目代 武史(准教授)	弁当代(国立台湾師範大学との会議)	19.9.9
【 国際交流に伴う物件費 】		
儲 梅芬(講師)	※記念品作成費等(九大記念品) 中国人民大学(4月及び9月)・国立台湾大学(1月)	

令和元年度卒業生就職状況

令和2年3月31日現在、( )は女子で内数

Table with columns: 学部, 就職先, 人数( ). Rows include Atrae, CBCテレビ, Freewill, JT B, JFE商事, LINE, NTTデータ, NTTドコモ, NECソリューションイノベータ, etc.

Table with columns: 就職先, 人数( ). Rows include トライアンス, 西日本鉄道, 西日本シティ銀行, 日本IBM, 日本郵船, etc.

Table with columns: 就職先, 人数( ). Rows include JR九州, KPMG NANJING, LEYTONS COFFEE ROASTER, paypal, PWC, QUICK, ReDesignX, etc.

九州大学経済学部同窓会役員名簿

(カッコ内は卒業年次～昭和、ただしHは平成) 2020年9月

Table of officers and members. Columns: 役員, 氏名. Includes 会長 貫正義, 副会長 秦喜秋, 事務局長 藤井美男, etc.

Table of regional branches. Columns: 支部, 支部長, 副支部長, 監事, 評議員. Includes 福岡支部, 東京支部, 関西支部, etc.

信頼と安心//TRUST ME. 税理士 油布 寛 (昭54年経済卒). 油布税理士事務所. TEL:092-409-9434. E-mail: hirochanyufu@outlook.jp

## 九州大学経済学部同窓会歴代会長

- 初代 田中 定氏 (昭和50年10月4日～)(3期8年)  
 第2代 森下 弘氏 (昭和58年2月4日～)(1期3年)  
 第3代 岡野 正實氏 (昭和61年10月24日～)(2期6年)  
 第4代 谷川 大介氏 (平成4年10月9日～)(1期1年)  
 第5代 渡邊 彦士氏 (平成5年7月7日～)(1期3年)  
 第6代 福岡 道生氏 (平成8年10月11日～)(1期3年)  
 第7代 吉田 清治氏 (平成12年2月10日～)(1期2年)  
 第8代 森山 靖章氏 (平成14年5月31日～)(1期3年)  
 第9代 平山 良明氏 (平成17年7月7日～)(1期3年)  
 第10代 池田 弘一氏 (平成20年7月7日～)(2期6年)  
 第11代 貫 正義氏 (平成26年7月7日～)

## 同窓会からのお願い

同窓会会費の納入をお願い致します。

会費は、終身会費(45,000円)と普通会費(3年間分4,500円)になっております。

終身会費は一括払いと分割払いとがあります。ご都合のつくときにご協力よろしくお願い致します。

- |       |      |                             |
|-------|------|-----------------------------|
| ①終身会費 | 一括   | 45,000円                     |
| ②     | 3分割  | 15,000円×3回(1.5年間で納入完了)      |
| ③     | 6分割  | 7,500円×6回(3年間で納入完了)         |
| ④普通会費 | 3年間分 | 4,500円ずつ(11回・49,500円の納入で完了) |

◎平成18年(2006年)3月末日までに旧同窓会規定の終身会費を既に納入頂いております皆様は、そのまま新同窓会規約の終身会員に移行しております。

◎従来の普通会員として今まで振り込まれた合計金額と、49,500円との差額を、今後何回かの分割払い、または一括払いで払い込まれた場合も、終身会員に移行となります。

◎終身会費を分割払いにされます方は、半年毎に3回又は6回続けてお振り込み頂きますようお願い致します。

◎会費納入や住所変更等のデータは、令和2年9月30日現在で集計しました。

住所など身の事情に変更が生じましたら、すみやかに下記同窓会事務局までご連絡ください。

同窓会名簿作成へのご協力のお願い

同窓会名簿につきまして、現在五年に一度の全面改定作業を進めております。サラトという業者から、書面で皆様の住所等に変更がないかまずお伺いし、書面でお返事がなかった方には確認のお電話を差し上げているところです。名簿は本同窓会の活動に重要な資源でございます。なにとぞ名簿作成に御協力賜りますようお願い申し上げます。



九州大学経済学部同窓会事務局

(開室：平日の月・火・木・金 10時～17時)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学経済学部内

TEL 092-802-5561/FAX 092-802-5560/E-mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp

経済学部同窓会ホームページ <http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4>